京都府久御山町

林寺跡試掘調査報告書

財團法人　古代學協會

京　都

平成14年

目　　次

第１章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境…… 1
第１節　遺跡の位置と地形 …… 1
第２節　遺跡周辺の歴史的環境…… 1
第３節　林寺跡をめぐる従来の認識…… 3
第２章　調査の経過 …… 6
第１節　調査に至る経緯 …… 6
第２節　調査経過 …… 6
第３章　層序と遺構 …… 8
第１節　層序と遺構の概要 …… 8
第２節　第１トレンチ…… 8
第３節　第２トレンチ …… 9
第４節　第３トレンチ …… 9
第５節　第４トレンチ …… 10
第４章　出土遺物 …… 11
第１節　縄文土器 …… 11
第２節　弥生土器 …… 11
第３節　土師器 …… 11
第４節　須恵器 …… 12
第５節　黒色土器・瓦器・瓦質土器 …… 12
第６節　陶磁器 …… 13
第７節　瓦 …… 13
第８節　製塩土器 …… 13
第９節　土製品・石製品 …… 14
第５章　まとめ …… 15

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置１ …… 1
第２図　遺跡の位置２（1/25000）…… 2
第３図　調査区配置図（1/2500）…… 2
第４図　久世郡拝志の郷（久御山町林）の林廃寺址 …… 4
第５図　グリッド割付図（1/1000）…… 7
第６図　ピットＰ320検出状況（1/10）とその出土須恵器（1/3）…… 10
第７図　須恵器大甕（1/3）…… 12

図 版 目 次

図版１　第１トレンチ平面図・断面図（1/250）…… 27
図版２　第２トレンチ平面図・断面図（1/250）…… 29
図版３　第３トレンチ平面図・断面図（1/250）…… 31
図版４　第４トレンチ平面図・断面図（1/250）…… 33
図版５　縄文土器・弥生土器・土師器実測図（1/3）…… 35
図版６　須恵器実測図（1/3）…… 37
図版７　黒色土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品実測図（1/3）…… 39
図版８　瓦実測図（1/2）…… 41
図版９　上　発掘前光景（西・６層駐車場屋上の東南より）…… 43
　　下　機械掘削光景（西より）…… 43
図版10　上　第１トレンチ遺構検出作業光景（西より）…… 45
　　下　第１トレンチ終了光景（東より）…… 45
図版11　上　第２トレンチ終了光景（東より）…… 47
　　下　第３トレンチ終了光景（西より）…… 47
図版12　上　第４トレンチ終了光景（西より）…… 49
　　下　終了全景（西・６層駐車場屋上東より）…… 49
図版13　上　第１トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）…… 51
　　下　土坑ＳＫ177遺物出土状況（東より）…… 51
図版14　上　第３トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）…… 53
　　下　ピットＰ320検出状況（北より）…… 53
図版15　上　土師器 …… 55
　　下　須恵器 …… 55
図版16　上　瓦器・瓦質土器 …… 57
　　下　瓦 …… 57

付 表 目 次

第1表　土器・陶磁器観察表 …… 16
第2表　瓦観察表 …… 23

例　　言

1. 本書は，平成13年に財團法人古代學協會・古代學研究所が日産自動車株式会社の委託を受けて行った，京都府久世郡久御山町大字林字高黒地内の試掘調査の報告書である。
2. 挿図及び図版で使用した方位･座標値は，平面直角座標第Ⅵ系に基づくものである。ただし，単位(m)は省略している。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
3. 第２図には国土交通省国土地理院地形図「淀」「宇治」(1/25000) を使用した。
4. 本書で使用した土色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(2000年版) に準じた。
5. 遺構・遺物の実測は河野凡洋，谷口　梢，桐山秀穂が行った。
6. 図版の作成とトレースは河野，谷口，桐山が行った。
7. 写真の撮影は江谷　寛，桐山が行った。
8. 出土遺物は久御山町教育委員会が，調査の記録は財團法人古代學協會・古代學研究所がそれぞれ保管する。
9. 本書の執筆は，江谷（第５章）と桐山（第１～第４章）が行い，編集は江谷が行った。

第１章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境

第１節　遺跡の位置と地形（第１図～第３図参照）

林寺跡は京都府久世郡久御山町林字高黒地内に所在する。近鉄大久保駅から西へ1.2km，寺山地区の丘陵の緩やかな坂を下りきり，沖積平野に入ったところに位置する。現在の日産自動車京都工場の敷地内である。

この沖積平野は，京都盆地の中部，西を男山丘陵，東を宇治丘陵によって画された木津川下流の沖積平野である。木津川は三重県布引山地に水系の端を発し京都府木津町・山城町で流れを西から北へ大きく変える。そして北流した木津川は戦前までは巨椋池に流れ込み，その下流域に沖積平野を発達させてきた。巨椋池は京都盆地のほぼ中央部に位置した池であったが，昭和16年（1941年）に干拓が完成し，現在では水田地となっている。

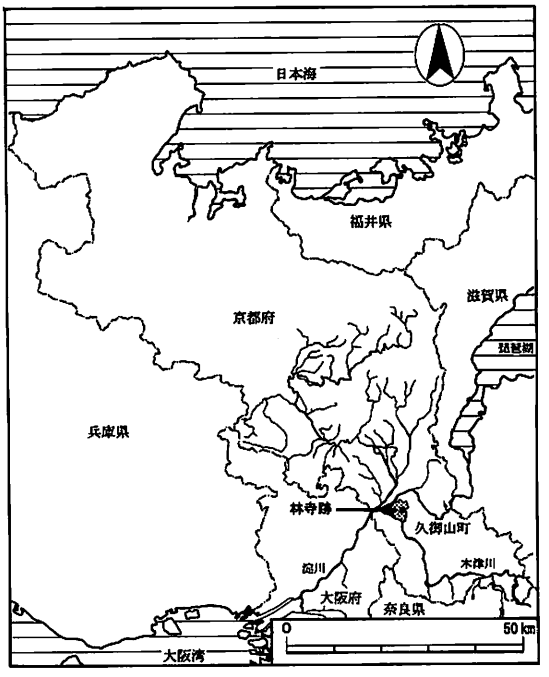
木津川下流域の平野についてはほぼ平坦な地勢であるが，標高は府道宇治淀線の佐山より田井に至る間が13～13.5mと最も高く，これより旧巨椋池に向かって緩やかに傾斜している。木津川左岸では久御山町森・双栗から八幡市内里，京田辺市大住を結ぶラインより西，右岸では久御山町中島・坊ノ池以東では条里型地割が非常によく残っている。中世までに土砂の堆積が進み，開発が及んでいたのであろう。

この平野には旧河道及び微高地が広範に分布している。微高地は現在市田，佐山，林のような古くからの集落や島畑に利用されている。大部分が木津川や旧河道に伴う河川堤防である。そして旧河道は網状に分布しており，微高地を各所に形成する。城陽市寺田から塚本にかけて扇状地末端から西向きの数条の旧河道が確認できるが，木津川本流の旧河道とは営力的に異なる。木津川とは別の河道であった可能性が高い。同様に，林寺跡でも蛇行しつつ西流する旧河道の存在が指摘され，旧名木川にあてる説がある。この旧河道が形成するいくつかの微高地には佐山，林などの集落が立地しているが，その一つとみられる微高地に林寺跡は立地している。旧巨椋池から南へ1.3km の地点である。

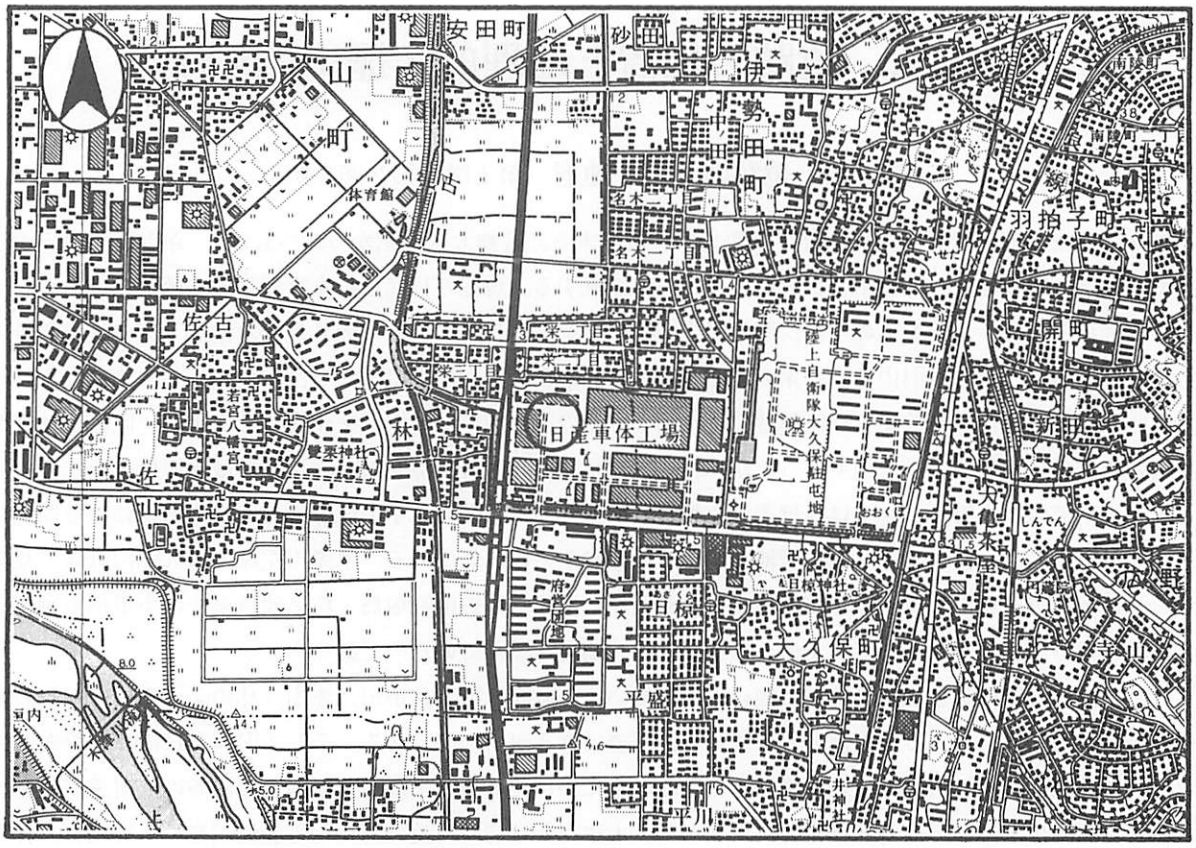
第２節　遺跡周辺の歴史的環境

林寺跡は前述の通り沖積低地の中に立地しており，周辺の古代の集落も林寺跡と同様に微高地上に展開している。林寺跡西側では市田斉当坊遺跡（弥生時代中期，古墳時代前期），佐山遺跡（弥生時代後期，弥生時代終末期～古墳時代後期），佐山尼垣外遺跡（縄文時代晩期，弥生時代中期～後期）がある。このうち弥生時代中期の環濠集落である市田斉当坊遺跡，弥生時代終末期～古墳時代後期の佐山遺跡では，この時期の拠点集落である。また，林寺跡東側では巨椋神社東遺跡（弥生時代後期），神楽田遺跡（弥生時代中期），若林遺跡（古墳時代前期），井尻遺跡（弥生時代～古墳時代），旦椋遺跡（古墳時代）がある。

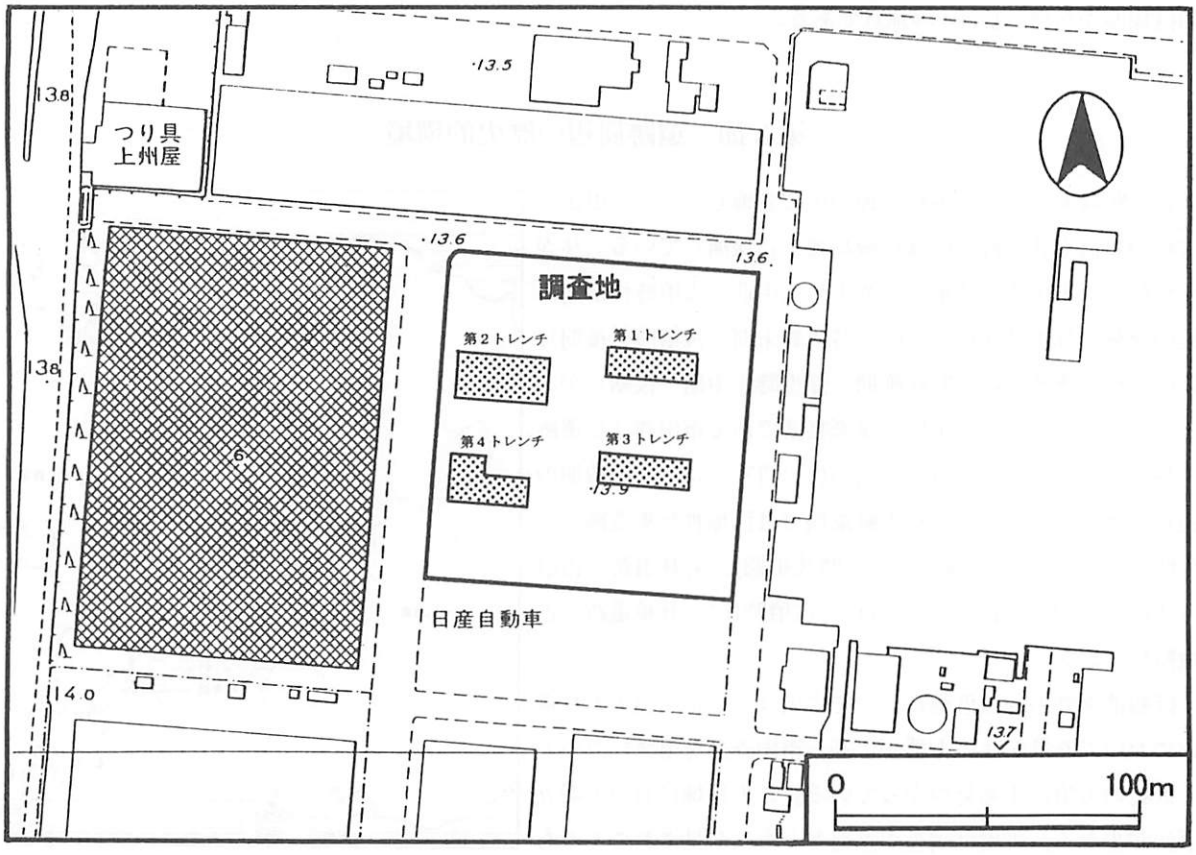
巨椋池南畔の沖積低地において古墳は，近年宇治市若林遺跡において５世紀代の方墳が１基，市田斉当坊遺跡において６世紀の方墳が１基見つかっている。この地域において調査事例が少なく，古墳は調査の進展とともに発見されてくるものと思われる。宇治市域の丘陵部に庵寺山古墳（前期），金毘



第１図　遺跡の位置１



第２図　　遺跡の位置２（1/25000）



第３図　　調査区配置図（1/2500）

羅山古墳（中期），坊主山古墳（後期）と古墳時代を通じて分布している。古墳時代中期に林寺跡の南方に南山城の首長墓とみられる久津川車塚古墳を始めとする久津川古墳群が展開している。中でも久津川車塚古墳は畿内でも有数の大型前方後円墳であり，主体部からは竜山石製の長持形石棺をはじめ，鏡，玉類，武器，武具など豊富な副葬品が出土している。ヤマト政権と深く結びついた有力な首長の存在をうかがわせている。

『日本書紀』によれば５世紀，ないしは７世紀に『栗隈大溝』が開削されたという[1]。こうした土地開発も，南山城に首長として立つ政治力・経済力を背景としたものであろう。栗隈大溝の所在については，現在の古川を当てる説[2]，長池から久津川にいたる堤防説[3]，旦椋遺跡で確認された溝を当てる説[4]があるが，古川を当てる説が最も有力なようである。

続いて奈良・平安時代，この周辺には古代寺院が多く，宇治市広野廃寺，城陽市久世廃寺，平川廃寺がある。また，城陽市正道遺跡は郡衙に関係する遺跡と考えられている。いずれも奈良時代の創建である。また，この地域では条里型地割がよく残っており，前述の市田斉当坊遺跡，佐山遺跡，佐山尼垣外遺跡では奈良時代以降の条里型地割に関係する遺構が確認されている。

『和名類聚抄』によれば久御山町が所在する久世郡では竹渕，奈美，那羅，水主，那紀，宇治，久世，殖栗，栗隈，富野，拝志，羽栗の十二郷があげられている[5]。大字名の林はこの拝志郷の遺称であり，奈良時代以降の集落であることがわかる。

また，『延喜式』内膳司式には奈良園，奈癸園が登場する。奈良園は那羅郷，すなわち現在の八幡市上奈良，下奈良一帯，奈癸園は那紀郷，現在の宇治市伊勢田町付近と考えられている。こうした園地では野菜類が栽培され，宮中に貢進された。このような園地の存在を考える時，巨椋池南畔の沖積低地は農業地帯として認識され開発が相当進んでいたものと考えられる。

久世郡における式内社には石田神社，水主神社，荒見神社，水度神社，伊勢田神社，室城神社，雙栗神社，旦椋神社，巨椋神社がある。大社の奉祭神数は14座で山城国八郡の中でも２番目に多い。そして，水度神社以外の八社は沖積低地内に分布しており，古くから低地部に開発が及んでいたことがうかがわれる。このうち雙栗神社は林寺跡の西800m，林の集落内にある。旦椋神社は現在大久保の集落に鎮座しているが，近世までは林寺跡の南500mのところにあったとされている。

平安時代後期以降，水上交通の発達と物資の流通の発達とともに，巨椋池周辺のおける経済活動は再び活発となる。長保三年（1001）四月八日付の山城国禅定寺田畠流記帳[6]によれば拝志郷に禅定寺寺領の畠六段があったとされている。また佐山遺跡においては平安時代後期以降，鎌倉時代前半を中心とした時期の堀を巡らした屋敷地が発見されている[7]。文献史料の上でも石清水八幡宮文書に「狭山郷」「麻倉郷」「栗前郷」が登場し，石清水八幡宮との間の活発な経済活動がうかがわれる。なお雙栗神社を中心として西林寺，満願寺，称名寺に平安時代後期の半丈六仏が集中していることは非常に特筆すべきものである。このようなことは水上交通や流通の発達した結果，淀川・巨椋池を介した交通・流通の結節点となり，経済的地位を確立した結果と思われる。

第３節　林寺跡をめぐる従来の認識（第４図参照）

林寺跡は今回が試掘ではあるが，初めての発掘調査である。ここでは，これまでの研究者による林寺跡の現状に関する認識とその解釈を整理しておく。また，林寺跡は『日本文徳実録』[8]『延喜式』[9]に登場する「拝志寺」に比定する説がある。この解釈との関りについても触れておきたい。

林寺跡に関するこれまでの研究者による記述は以下の３つの文献があり，以下順をおって概説する。

１．吉田東伍『大日本地名辞書』（冨山房・東京，明治33年）

山城国久世郡拝志郷の項に『相之京』という小項目があり，ここに林寺跡のことが記載されている。原文は

次の通りである。

河田氏云，林村字高里は相之京とも云ふ。拝志長者の宅址にて近傍に幣田神田あり。耕者往々古瓦を掘出す。其形完き者方三寸厚一寸六分，表に羅絡裏に雲紋を印す。又其墟は中央に小塚あり。土人呼びて野神と曰ふ。(171頁)

ここでは林寺跡の状況については，①野神と呼ばれる小塚（小さい高まりのことか）がある②古瓦が採集される，の２点があげられる。そしてこの解釈については，河田氏の発言として付近にこの幣田神田があることから「拝志長者」の屋敷跡という解釈を示している。

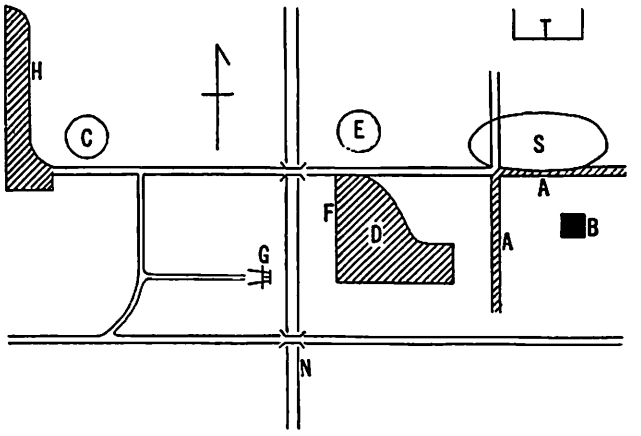
なお，吉田東伍氏は『拝志寺』については山城国紀伊郡拝志郷の項で『此郷は深草村の東南大龜谷の辺をさしたるならん，都名所圖會に拝志寺は深草に其址あるべしと云ふも是歟』(149頁）とあり，拝志寺は紀伊郡深草の付近に存在したという見方を採っている。

２．たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』(『日本歴史』第267号掲載，吉川弘文館･東京，昭和45年)

この中で田中重久氏は久御山町田井在住の高校教諭林正次郎氏の説として，論文に引用している。原文は以下の通りである。

久世郡久御山町大字林の東二〇〇メートル，いまの日産車体の構内に野神という約一畝の土坦があり（高さ不明）その西と北各一〇〇メートルのところを，東西と南北に走っていた旧道（今亡）沿いに，曽て布目瓦を多く出土した。(76頁)

ここでの林寺跡の状況に関しては，①野神と呼ばれる約一畝の土坦がある②高まりの西と北各100mのところを東西と南北に走っていた旧道沿いに布目瓦が採集される，の２点である。これは基本的に吉田氏と同じである。そしてこの遺跡の付近には「大門」「中垣内」「垣外」という小字があるので，瓦窯跡ではなく寺跡と解釈している。ただし，巨椋池の南畔に位置することから近都の範疇に入らないので史料にあらわれる『拝志寺』に比定できないとしている。



第４図　久世郡拝志の郷（久御山町林）の林廃寺址(註)
(久御山町田井の林正次郎先生[府立洛北高校社会科]作図)
A：瓦を出土した旧道　B：土坦は堂塔址か　C：大門
D：中垣内　E：垣外　F：林　G：双栗神社
H：西林　S：京の間（平城，平安両京の間）
T：三条（久世郡の条）

３．阪部五三夫・中務佐市編『久御山町の社寺』(久御山町郷土史会・京都府久御山町，昭和51年)

この中の林寺の項では上記の１・２の文献を引用し，状況を述べている。ただし，採集された瓦には長岡京出土のものと同様のものがあると述べ，８世紀には存在した久御山町最古の寺院としている。

以上についてまず，遺跡の状況については①野神と呼ばれる約一畝の土坦がある②布目瓦が採集されるという２点に集約される。そして②について文献２より高まりの西と北各100mのところを東西と南北に走っていた旧道沿いで採集されていたこと，文献３よりそれが長岡京出土の瓦と同じであることが補足された。

遺跡の解釈について，文献１では地元の伝承より「拝志長者の宅址」とされていたが，文献２では寺跡という解釈が示され，それが文献３で踏襲されている。

しかし寺跡の根拠となっているのはあくまで上記の２点の状況である。今回の試掘調査ではこの根拠となった高まりや布目瓦の確認と新たな寺院関連遺構（基壇，礎石建物跡，瓦溜まりなど）の検出が目的とされた。

註

（1）『日本書紀』仁徳天皇十二年十月条，および推古天皇十五年二月条。ただし，前者の開削記事について書紀成立時における潤色という意見があり，史実かどうか定かではない。

（2）谷岡武雄『平野の開発』（東京，昭和39年）。

（3）足利健亮『京都盆地東縁の南北古道』（『探訪古代の道』２所収，昭和63年）。

（4）荒川　史『栗隈の大溝に関する一試案』（『あまのともしび―原口正三先生古稀記念集―』所収，平成12年）。

（5）池邊　彌編『和名類聚抄郷名考證　増訂版』（昭和45年，東京）。

（6）『禅定寺領田畠流記帳』（財団法人古代学協会編『禅定寺文書』所収，昭和54年）。

（7）財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター『久御山町佐山遺跡第３次』（『京埋セ現地説明会資料』No01-05，向日，平成13年）。

（8）『日本文徳実録』嘉祥三年三月条

（9）『延喜式』玄蕃寮式

図註

（註）たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』（『日本歴史』第267号掲載，吉川弘文館・東京，昭和45年）76頁の第一図を転載。

第２章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

京都府宇治市及び久世郡久御山町にまたがる日産自動車京都工場において平成13年（2001）に工場閉鎖・売却に伴う再開発が計画された。この中で当該地が遺跡指定されていることから，久御山町教育委員会から日産自動車株式会社に遺跡確認のため試掘調査を行うよう指示があった。これにより平成13年５月日産自動車株式会社より財團法人古代學協會・古代學研究所に試掘調査の依頼があった。数度の協議を行い検討した結果，これを受託することとし，試掘調査を担当することとした。

発掘の担当は以下の通りである。

調 査 主 任：江谷　寛（財團法人古代學協會・古代學研究所教授）

調　査　員：桐山秀穂（財團法人古代學協會・古代學研究所助手）

調査補助員：谷口　梢（帝塚山大学大学院修士課程１年）

河野凡洋（花園大学大学院修士課程１年）

また，発掘調査の実施に伴う様々な協力については下記の業者に発注した。

機 械 掘 削：株式会社　大高建設

作 業 委 託：ＴＳＫトレードサービス

基準点測量：日開調査設計コンサルタント

平成13年５月に契約書を締結し，具体的な発掘調査の準備を始めた。調査範囲は当該地約10000㎡のうち1200㎡を調査対象とすることとした。そして５月29日から６月２日にフェンス設置，プレハブ設置など発掘準備，器材準備を行った。

第２節　調査経過（第５図，図版９・10上参照）

試掘調査は平成13年６月４日に開始し平成13年８月１日に終了した。試掘調査の対象地区は日産自動車京都工場の北西部の現在は駐車場として使用されていた区画である。東西約100m，南北約100mの平面ではほぼ正方形を呈する。この地区について国土座標第Ⅵ系に基づいてグリッドの設定を行った。すなわちこの地区に国土座標の４メートル方眼の網を被せて北東角を起点とし，南北方向では１～33列，東西にはＡ～ＡＤ列を設定した。そして各グリッド名はこのアラビア数字とアルファベットの組み合わせて用いることとした。そしてこの地区の中で４本のトレンチを設定したが，トレンチの配置について２度大きく変更している。

調査は当初，幅4.5m，長さ88mのトレンチを，東西方向に２本，南北方向に１本，計３本掘削する予定であった。しかし，機械掘削を始めた６月７日に遺構面までの深さが2.5mと予想以上に深いことが判明し，そのため急きょ幅10m，長さ30mのトレンチを４本に変更した。この際，最初に掘り下げた部分については壁の崩落の危険性を考慮して，最低限の記録に留めた上で埋め戻した。

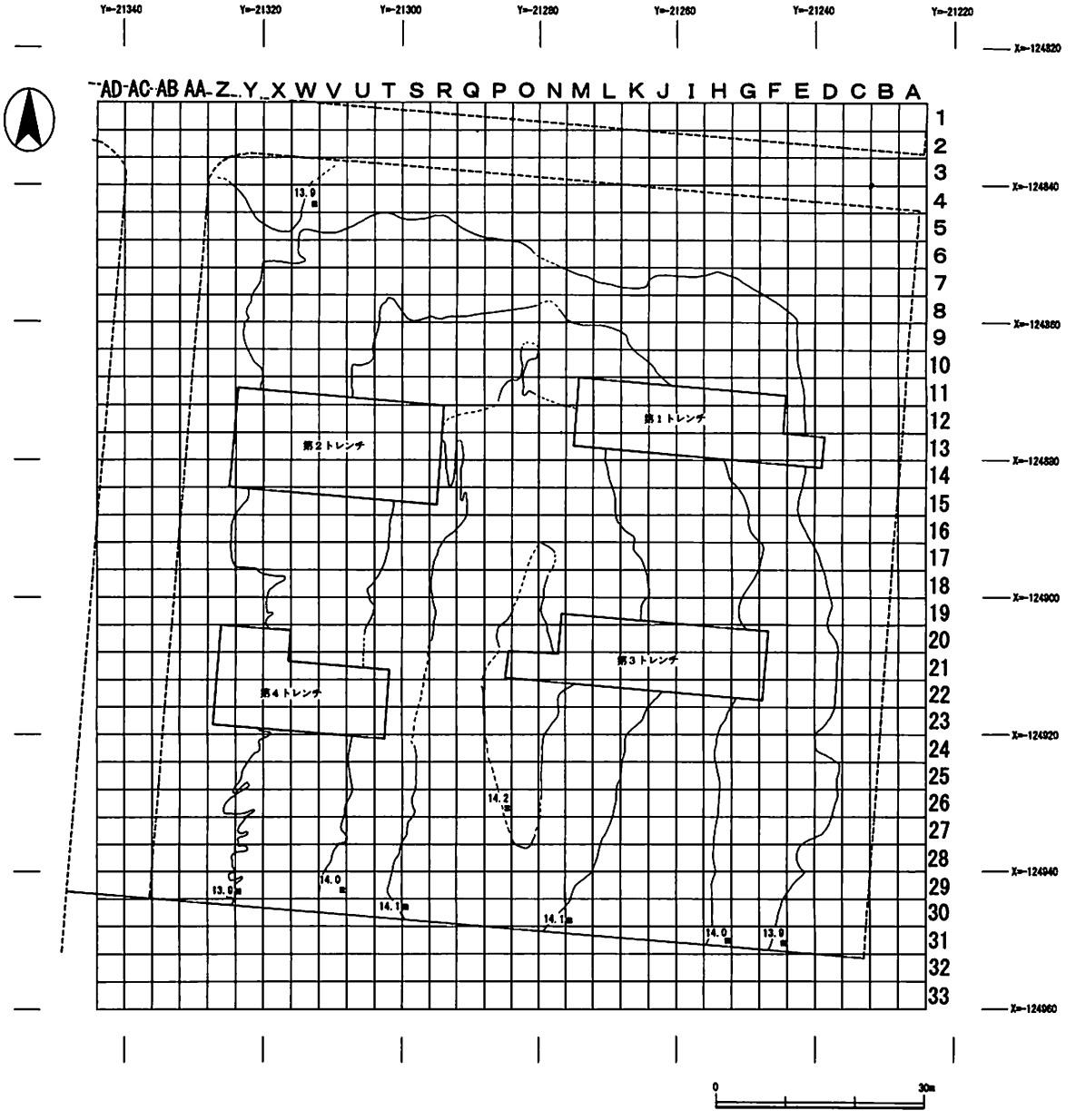
しかし６月13日，第２トレンチで奈良時代の瓦が出土し，ピットが確認されたため，このトレンチについては幅を13.5mに拡張し，第４トレンチを若干縮小することとした。

６月４日から平成13年６月13日まで第１トレンチから順に機械掘削を行い，地表より2.2～2.8mのレベルで遺構面を確認した。６月11日より遺構面及び壁面の清掃と遺構検出作業に入った。６月13日に第２トレンチのサブトレンチで下層遺構が確認された。従って，全トレンチにサブトレンチを入れて下層遺構を確認することとした。第３トレンチについてはサブトレンチを入れる場所に戦前の溝を確認しており，この溝を掘り下げる

こととした。そして７月３日より平面実測及び断面実測にとりかかった。７月19日に掘り下げ終了し，全体の清掃を始め，７月25日までにトレンチ別の終了光景と全体の終了光景の写真を撮影した。

７月２６日には第３トレンチの高まりが寺院の基壇か否か明らかにするために幅4.5m，長さ９ｍのトレンチを第３トレンチの西端を延長するように新たに設けて拡張し精査を行った。また，この日，京都府教育委員会，久御山町教育委員会による試掘調査の最終確認が行われた。

７月27日より８月１日まで埋め戻し作業を行い，８月２日に日産自動車株式会社に現場引き渡しを行った。



第５図　グリッド割付図（1/1000）

第3章　層序と遺構

第1節　層序と遺構の概要

この調査の基本層序は次のように大きく4層に分けることができた。

Ⅰ層：上面はアスファルトで舗装されており，その下は7.5YR4/6褐色，ないし5YR5/4にぶい赤褐色砂泥で3～7cmの角礫を多量に含む。あまり締まっておらず軟らかい。厚さ約0.6mであった。戦後の日産自動車の駐車場造成に伴う盛土層である。

Ⅱ層：上面はアスファルト舗装，その下5YR4/4にぶい赤褐色砂泥（1～2cmの礫を少量含む），7.5YR4/3褐色砂泥（1～2cmの礫を中量含む），10YR6/4にぶい黄橙色砂泥（10cm，1.0～1.5cmの礫を中量含む）10YR5/4にぶい黄褐色泥土が短いスパンで鱗状に積み上げられている。あまり締まっておらずやわらかい。厚さ1.4～1.6mであった。戦時中の京都飛行場建設に伴う盛土層である。

Ⅲ層：5Y4/2～4/3灰オリーブ色～暗オリーブ色砂泥層。戦前の耕作土層である。厚さ約0.3～0.5mである。これはさらに細分化された。

Ⅳ層：5Y4/1～4/2灰色～灰オリーブ色砂泥層。Ⅲ層よりも色調が淡い。各トレンチで異同が認められる。一応古代から中近世の層と考えられる。これもまたさらに細分化された。

Ⅴ層：2.5Y4/1黄灰色泥土層。一応地山とみられる。

なお，第3トレンチではⅢ層が1.3mと厚かったが，その分Ⅱ層は0.3mと薄かった。後述するが，このⅢ層は島畑であり，それをそのまま埋めたため，このような土の堆積をしている。

今回の調査では旧耕作土を除去した面，すなわちⅣ層上面を第1の遺構面と認識し，遺構の確認にあたった。そして，各トレンチの北ないし南壁に沿って幅50cmのサブトレンチを設定し掘り下げ，Ⅴ層上面でも遺構の確認を行った。

本調査により確認された遺構総数は293基である。そしてその大半が耕作に伴う溝，ないし方格地割に伴う溝で，東西あるいは南北小溝である。これは中近世のものである。このほか縄文時代以降のピット1基，弥生時代終末期のピット1基，古墳時代後期の土坑1基，奈良時代以降のピットと考えられる遺構5基がある。

またこれらの遺構は時期的に各遺構の性格の違いから必ずしも連続していないものとみられる。すなわち，遺物から見れば飛鳥時代と奈良時代の間には空白期があり，平安時代中期にもやはり空白期が存在する。中世以降は連続しているものとみられるが，農地として利用されたと推測される。遺物が少なく，遺構の具体的な動向はよくわからない。

以下，トレンチごとで層序と遺構を説明する。

第2節　第1トレンチ（図版1・10下参照）

現地表より2.5m下で遺構面（Ⅳ層上面）を確認した。中近世の小溝群が確認された。また，北壁に沿って幅50cm，深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げた。この底面はⅤ層上面であり，P166，P167，P168，SD169，SD170，SD171，SD172が確認され，下層にも遺構の存在が判明した。このうちP166は飛鳥時代の遺構の可能性がある。したがってこの面が古墳時代から奈良時代の遺構面の可能性が高いと考えられる。

第1トレンチからは77基の遺構が確認された。この大部分が耕作に伴う小溝である。ピットもいくつかあるが，平面形が整っておらず，埋土は溝と同質の土である。したがって耕作溝の一部が残ったものであり，柱穴の可能性は低いと考えられる。

なお，６月10日に掘削した部分はこのトレンチの東につながり，このトレンチを第１トレンチ拡張区とした。ここからは現地表面から2.5m下で古墳時代後期の土坑状の遺構ＳＫ177が確認されている。この土坑からは６世紀～７世紀の須恵器が少量出土している。

第３節　第２トレンチ（図版２・11上参照）

現地表より2.６～2.8m下で遺構面（Ⅳ層上面）を確認した。また，東壁に沿って幅1.8m，深さ30cmのサブトレンチを，南壁に沿って幅50cm，深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げた。サブトレンチ内からはＰ539，Ｐ540，Ｐ541，Ｐ542，Ｐ543，ＳＤ544，Ｐ545，Ｐ546，Ｐ547，Ｐ548，Ｐ549，ＳＤ550，ＳＤ551，ＳＤ552，ＳＤ553，ＳＤ554，ＳＤ555が確認された。遺構は155基確認された。縄文時代以降のピット，弥生時代のピット，奈良時代以降のピット，中近世の小溝群である。また，このトレンチからは奈良時代の軒平瓦が１点出土している。

縄文時代以降のピットとは東壁沿いのサブトレンチ内の遺構Ｐ539である。ここより縄文晩期長原式の深鉢口縁部が出土している。細片であり，この遺構からはほかに出土遺物がない。ピットの検出レベルは現地表より2.9m下であり，古い時期の遺構であることは確かである。一応縄文時代晩期以降と考える。

弥生時代のピットも同じく東側のサブトレンチより確認された。ピットからの出土遺物はないが，これを覆っていた土中より弥生時代終末期の甕破片が出土しており，これ以降の遺構と判断される。このピットの検出レベルは現地表より3.0m下である。縄文時代以降のピットとの関連はわからない。

奈良時代以降のピットはＰ224，Ｐ231，Ｐ233，Ｐ245，Ｐ502である。いずれもトレンチ東側に位置する。Ⅳ層上面から掘り込まれた遺構である。平面形は一辺50cm～80cmの方形，ないし隅丸方形を呈し，埋土には土師器・須恵器を比較的多く含んでいる。柱穴の可能性があるが，時期や具体的な性格については掘り下げていないので厳密な判断できない。含まれている遺物から一応奈良時代以降とした。

このトレンチの遺構の大部分は中近世の小溝群である。また，サブトレンチを掘り下げたところ，トレンチの中央やや西よりに幅12mほどの落ち込みＳＤ555が確認されている。これはその位置から坪境の大溝の可能性か，さらに古い時期の溝，ないし埋没河川の可能性もある。

このトレンチの西，Ｙ12区・Ｙ13区に幅5cm以下，長さ20cm～30cmの東西方向の小溝が密集する。これはその大きさやこの溝の端部が鋭角的であることから，鋤の痕跡と考えられる。こうした痕跡は全トレンチの中でもここだけである。また，12世紀代の遺物はここからまとまって出土している。

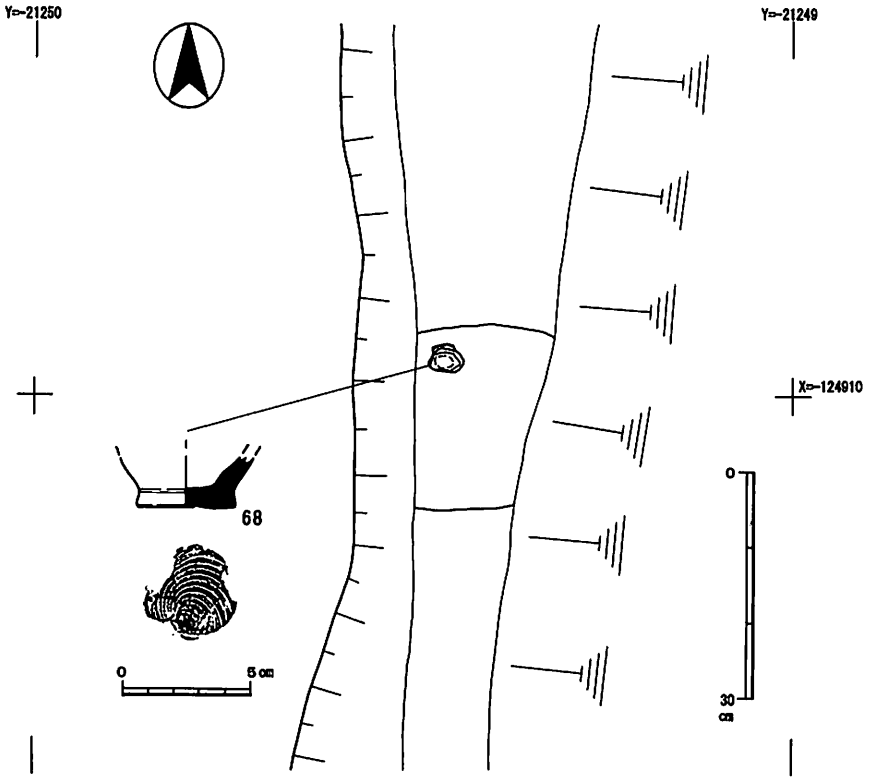
第４節　第３トレンチ（第６図，図版３・11下参照）

現地表より2.2m下で遺構面（Ⅳ層上面）を確認した。遺構は20基確認した。Ⅳ層上面では近世･近代の溝群が確認された。また，このトレンチでは北壁沿いと東壁沿いの近代の溝を掘り下げて下部の遺構の確認した。それは東壁沿いの溝から見つかった９世紀代の小土坑１基である。

９世紀のピットはＳＤ303の底より見つかったＰ320である（第６図）。30～40cmほどの平面楕円形を呈する小土坑である。須恵器壷Ｌの底部が出土し，それより９世紀と判断される。

また，このトレンチは他のトレンチと比較して50cmほど遺構面のレベルが高い。また，戦時中の飛行場建設に伴う整地層の直下に旧耕作土とそれ以前，近世以降の盛土層が堆積しており，戦前はある程度高まりがあったことが認められた。

これらの高まりの具体的な様相を把握するため，試掘の最終段階において幅4.5m，長さ10m西側に拡張した（第３トレンチ拡張区）。その結果，まず遺構面の高まりは，東西で30m以上あることがわかり，寺院の基壇な



第6図　ピットP320検出状況（1/10）とその出土須恵器（1/3）

どの遺構ではなく，自然地形の微高地であることが判明した。

また，戦前の盛土層についても東西30m以上あることが判明した。ただし，旧耕土層はトレンチの西端付近で途切れており，東西幅が約30mであることがわかった。盛土がなされた上に耕作土を入れて耕作されていることから，この高まりは島畑であると判断された。この高まりを除去した地点では遺構，特に耕作溝と称される小溝群は全くない。これは佐山遺跡などこの周辺で見つかっている島畑跡と共通する特徴である[1]。

これまでの林寺跡をめぐる研究の中で，吉田東伍氏，田中重久氏はその存在根拠の1つとして，基壇状の高まりの存在をあげている[2]。このトレンチで確認された戦前の盛土層，および遺構面の高まりはこれと直接関連するかどうかわからない。

第5節　第4トレンチ（図版4・12上参照）

現地表より2.6m下で遺構面（Ⅳ層上面）を確認した。遺構は41基確認した。方格地割に平行する中近世の溝群と斜行する溝3本を検出した。また南壁に沿って幅50cm，深さ20cmのサブトレンチを設定し掘り下げ下部の遺構の有無を確認した。サブトレンチでは東端の溝ＳＤ440と落ち込みＳＤ441が確認された。ＳＤ440はＳＤ401と重なっている遺構であり，掘り込み面についてはわからない。また，サブトレンチ内のＳＤ429以西では河川堆積層と思われるような落ち込みＳＤ441がある。これは第2トレンチと同様の遺構であり，条里制にかかわる大溝かあるいは自然流路が埋没している可能性がある。

斜行する溝にはＳＤ405，ＳＤ429，ＳＤ438の3本がある。

ＳＤ438は埋土がほかの中近世の溝と同質であり，近世瓦が出土していることから，近世の遺構であろう。地割方位と無関係にイレギュラーな形で掘り込まれたものである。

ＳＤ405，ＳＤ429は切り合いより条里制施行以前と考えられる。しかし，遺物が出土しておらず具体的な時期についてはわからない。この上層からは古墳時代の須恵器が出土しており，古墳時代の溝の可能性が高い。

註

（1）佐山遺跡の島畑跡については竹原一彦氏御教示。

（2）吉田東伍『大日本地名辞書』（東京，明治33年）。
たなかしげひさ『10世紀の平安京内外の諸寺』（『日本歴史』第267号掲載，東京，昭和45年）。

第４章　出土遺物

今回の調査で出土した遺物は整理箱にして６箱である。その時期は縄文時代から江戸時代までに及ぶ。そのほとんどはⅣ層上面ないしⅣ層からの出土である。遺物出土量をみると古墳時代後期，飛鳥時代，奈良時代後期，平安時代後期が多数を占め，また，全トレンチから出土している。縄文時代，弥生時代，古墳時代前期，江戸時代はわずかである[1]。

第１節　縄文土器（図版５参照）

第２トレンチＰ539から縄文土器深鉢口縁部が１点出土している（１）。口縁から下がった位置に突帯が１条付く。胎土からみれば，生駒西麓産である。晩期の長原式である。縄文時代の遺物はこの１点のみである。

第２節　弥生土器（図版５参照）

弥生時代の遺物は第１トレンチおよび第２トレンチより弥生土器の破片が少量出土している。２は甕の底部，４は甕の胴部である。４には粗い縦ハケが施されている。第Ⅱ様式のものである。３に櫛描文が施された壷の胴部破片がある。５条１単位の直線文と２条1単位の斜格子文が施されている。第Ⅱ様式から第Ⅲ様式のものである。このほかに小破片のため図示できなかったが，弥生終末期の甕の頸部が出土している。内面の縦のケズリが頸部境界まで入っているものである。

第３節　土師器（図版５・15上参照）

古墳時代前期，飛鳥時代，奈良時代後期から平安時代前期，平安時代後期に分けられる。

古墳時代前期の土師器には壷口縁部が１点第１トレンチから出土している（５）。口縁の立ち上がり部の中位が弱く外に屈曲し稜となっている。おそらく布留式と考えられる。

奈良時代後期から平安時代前期の土師器には杯（６～９），椀（10～11），皿（12～15），高杯（16）がある。６は杯Ｂの口縁部，７～９は杯Ｂの底部である。胴部は痛みが著しく調整についてよくわからない。立ち上がりの部分にナデが部分的に残存する。10・11は椀Ａの口縁部である。胴部はａ手法によって調整されている。12～15は皿Ａである。12は平安京Ⅱ期中段階に併行する時期のものであろう。９世紀後葉のものである。14はロクロナデの後ｃ手法によって調整している。16は高杯の底部である。12以外については器形および手法から平城Ⅲ～Ⅴ式に併行するものである。８世紀後半に位置付けられよう。

平安時代後期の土師器には皿（17～35），台付皿（36）がある。17～22は直径10cm ほどの中型皿である。ゆるやかに立ち上がり二段ナデが施されるもの（17・18），一段ナデが施されるもの（19・21・22），一段ナデであるが口縁が外反するもの（20）がある。23～28は小型皿である。直径は７～９cm であるが，27のみ５cm と小さい。これもゆるやかに立ち上がり一段ナデが施されるもの（23～26），口縁が外反し一段ナデが施されるもの（27・28）がある。29・30はいわゆる「手の字口縁」の皿である。直径は６～７cm で，平安京出土のものと比べると若干小さい。31～35はいわゆる「コースター」形の皿である。31は直径11cm と大型である。32～35は直径９cm 台で，口縁端部はしっかり折り曲げられている。底部はやや外に膨みを持つようである。36は台付皿の台部である。ヨコナデにより整形されている。

二段ナデの中型皿，立ち上がりのゆるやかな小型皿，「手の字口縁」の皿，「コースター」形の皿は平安京と

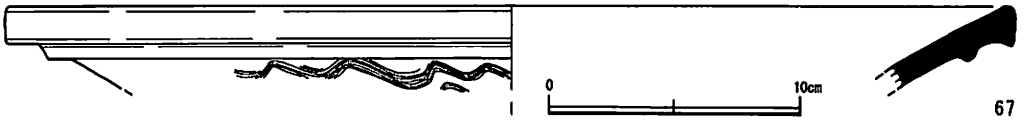
も共通する器形である。平安京の編年と比較すれば，27・28は平安京Ⅳ期新段階～Ⅴ期古段階に，それ以外は平安京Ⅳ期新段階～Ⅴ期古段階に相当しよう。しかし，胎土，細部の調整は平安京出土の土器とは異なり，在地産の土師器と考えられる。また，宇治市街遺跡の出土例とも比べても，27・28は13世紀後半，それ以外は11世紀末から12世紀初頭に位置付けられよう。

第4節　須恵器（第7図，図版6・15下参照）

古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器には杯H蓋，杯H，杯G蓋，杯B蓋，すり鉢，甕，壷がある。37・38は杯H蓋である。37は弱い稜が残存するが，38では稜がなくなり，天井部の回転ヘラケズリもない。37は陶邑田辺編年のＴＫ208型式に，38はＴＫ217型式に相当しよう。39～43は杯Hである。39は口縁の立ち上がりがしっかりしており，底外面の1/2以上に回転ヘラケズリが施される。ＴＫ43型式のものである。40は口縁の立ち上がりは比較的しっかりしているものの，底外面のヘラケズリが残存部位には認められない。41も立ち上がりは同様である。底外面の中央約1/2に回転ヘラケズリが施される。40～42はＴＫ209型式，飛鳥編年の飛鳥Ⅰ期に属する。43は立ち上がりが弱く，受け部も退化している。残存部からは底外面の回転ヘラケズリは認められない。口径も10cm 前後と小さい。ＴＫ217型式，飛鳥Ⅱ～Ⅲ期のものである。44は杯G蓋である。いずれも内外面は回転ナデ調整である。内面には，いずれも欠けているが，しっかりしたかえりがついている。ＴＫ217型式古段階，飛鳥Ⅱ期のものであろう。45は杯B蓋である。内外面とも回転ナデ調整であり，内面に短いかえりが付く。ＴＫ217型式新段階，飛鳥Ⅲ期のものである。56はすり鉢の口縁部である。口径13.0cm であり，比較的小さく古墳後期～飛鳥時代のものであろう。66は甕胴部である。外面は平行叩きの後にカキ目が施されている。内面は同心円叩きが残る。6世紀以降の資料であるが，39･43とともに第1トレンチＳＫ177より出土したものであり，これと同じ時期と考えられる。67（第7図）は大型の甕の口縁部である。頚部に櫛描波状文がある。

奈良時代の須恵器には杯B蓋，杯Aまたは杯B，皿A，壷A蓋，壷，甕がある。46～49は杯B蓋である。口縁部付近に段の付くもの（48・49）とつかないもの（46・47）がある。50～52は杯Aまたは杯Bの口縁部である。いずれも回転ナデ調整である。53～55は杯Bの底部である。底部立ち上がり近くに高台が付く。57・58は皿Aである。59は壷の肩部である。おそらく長頚壷であろう。60・61は甕Bの口縁部である。60は外面に平行叩き，内面に同心円叩きが残っている。62・63は甕Aの口縁部である。64は壷の口縁部である。口唇部下位に沈線1条めぐる。65は壷底部である。高台が付く。杯B，皿A，甕，壷のあり方から平城Ⅱ～Ⅴ期に併行するものと考えられる。

平安時代の須恵器は壷Lである（第6図68）。底径3.8cm で糸切り痕を残している。平安京Ⅱ期中段階，9世紀後葉のものである。



第7図　須恵器大甕（1/3）

第5節　黒色土器・瓦器・瓦質土器（図版7・16上参照）

黒色土器と瓦器椀，瓦質土器羽釜・深鉢が第2トレンチを中心に出土している。黒色土器はA類の椀底部が1点出土している（84）。底径は8.6cm で，見込みのヘラミガキは間隔の空いた平行線状を呈す。9世紀後半に属する。瓦器椀は樟葉型である（69～83）。Ⅰ－3期，11世紀末～12世紀初頭のものである。85は瓦質土器羽釜

である。口縁部は内傾し，外面に沈線が３本施される。14世紀の山城Ｅ型ないし摂津Ｅ型である。86は深鉢である。

第６節　陶磁器（図版７参照）

緑釉陶器，灰釉陶器，瀬戸，白磁，肥前染付，瀬戸染付が出土している。

緑釉陶器は２点出土している。87は印刻花文を施した東海産緑釉陶器の皿である。淡緑色の緑釉が全体に薄く掛けられている。ほか硬陶の緑釉陶器椀の破片が１点出土している。

灰釉陶器には椀口縁部と底部がそれぞれ１点づつ出土している。88は椀口縁部である。口縁より胴上半部に灰釉が薄く掛けられている。折戸53号窯式第３段階から東山72号窯式のものであろう。10世紀後半のものと考えられる。89は椀底部である。見込みに灰釉が残存する。高台の断面より黒笹90号窯式のものであろう。９世紀後半のものと考えられる。

瀬戸には柿釉の天目茶碗がある（90）。口径8.2cm で，高台脇を水平にヘラケズリが施されている。柿釉は上半部に厚く掛けられているが，下半部は露胎である。

白磁は碗で玉縁碗である（91）。胎土は粗雑で淡黄色を呈し，しっかり磁器化していない。やや黄味がかった白磁釉が厚く掛けられている。森田・横田編年の白磁碗Ⅳ類であり，12世紀後半～13世紀前半のものである。

染付は３点出土している（92～94）。92は肥前染付丸碗の口縁部である。外面に菊花が，口縁直下の内外面には圏線が描かれている。肥前磁器の大橋編年のⅤ期に属し，江戸時代後期，18世紀後半から19世紀前半のものである。93も肥前染付丸碗の胴部片である。外面に網目文が描かれる。94は瀬戸染付端反碗の口縁部である。胴部には隷字体文様が描かれている。これは瀬戸村編年の第３段階第11小期に属する。19世紀第３四半期のものである。

第７節　瓦（図版８・16下参照）

古代の瓦は軒平瓦１点と平瓦破片が出土している。

99は6681型式の平城宮式軒平瓦の中心よりやや左寄りの破片である。上に２本の圏線，下に１本の圏線を持ち，均整唐草文の一部が認められる。外区幅は上1.3cm，下1.15cm，内区幅3.2cm である。文様の深さは２～３mm と深く，非常にシャープであるが，唐草文にやや直線的な部分がある。断面は刳顎で瓦当面を貼り付けた後，凹面。凸面とも横位のヘラケズリの後ナデを施している。凸面の叩き目痕，凹面の布目は認められない。顎の長さは推定3.0cm，深さ0.9cm である。

100は平瓦の破片である。側面を残す。凹面に布目，凸面には縄目叩きを残す。

101は丸瓦の玉縁部である。凹面には布目を残す。凸面は縄目叩きをナデ消している。

102・103はともに縄目叩きが施されることから，平安前期以前のものである。あるいは99と同時期のものであろうか。

104～108は凹面に布目を持つ瓦の破片である。102は丸瓦の玉縁部，103は丸瓦の破片，104～108は平瓦の破片である。

第８節　製塩土器（図版７参照）

第２トレンチから２点出土している（95・96）。器厚は１cm ほどと分厚く，内面には布目圧痕がある。岩本正二氏の分類でⅡ類にあたり，８世紀中葉～９世紀初頭のものである[2]。

第９節　土製品・石製品（図版７参照）

土製品では第２トレンチより土製円盤が１点出土している(97)。信楽の甕胴部を打ち欠いて作ったものである。長さ3.8cm，幅3.2cm，厚さ1.3cm である。石製品では第１トレンチより砥石の破片が１点出土している(98)。残存する長さ4.8cm，幅4.8cm，厚さ2.5cm，重さ62ｇの粘板岩製である。

註

（１）出土遺物を分類するにあたっては下記の文献に参考としている。

＜須恵器＞　田辺昭三『須恵器大成』（東京，昭和56年）。

＜飛鳥～平安時代土器＞奈良国立文化財研究所編　『飛鳥・藤原京発掘調査報告書』Ⅱ（奈良，昭和53年）。
奈良国立文化財研究所編　『平城京発掘調査報告書』Ⅶ（奈良，昭和51年）。
古代の土器研究会編　『古代の土器１　都城の土器集成』（京都，平成３年）。
古代の土器研究会編　『古代の土器２　都城の土器集成Ⅱ』（京都，平成４年）。

＜平安時代土器＞　横田洋三『出土土師皿編年試案』（財団法人古代学協会『平安京左京五条三坊十五町』所収，京都，昭和56年）。
横田洋三『土師器皿（Ｂタイプ系）の器形，規格の変化と製作技術について』（財団法人古代学協会『押小路殿　平安京左京三条三坊十一町』所収，京都，昭和５９年）。
古代学研究所編『平安京提要』（京都，平成５年）。
小森俊寛・上村憲章『京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究』（財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『研究紀要』３所収，京都，平成７年）。

＜瓦器椀＞　高槻市教育委員会『上牧遺跡発掘調査報告書』（高槻，昭和55年）。

＜瓦質土器羽釜＞　菅原正明『畿内における土釜の製作と流通』（『文化財論叢』所収，京都，昭和58年）

＜緑釉陶器・灰釉陶器＞　斎藤孝正『東海地方の施釉陶器生産』（『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３　施釉陶器－』所収，京都，平成５年）。

＜輸入陶磁器＞　横田賢次郎・森田　勉『太宰府出土の輸入陶磁器について―型式分類と編年を中心として―』（『九州歴史資料館研究論集』４所収，太宰府，昭和５３年）。

＜肥前染付＞　大橋康二『肥前陶磁』（『考古学ライブラリー』20，東京，平成元年）。

＜近世瀬戸焼＞　瀬戸市史編纂委員会『瀬戸市史　陶磁史篇』６（瀬戸，平成10年）。

（２）岩本正二『７～９世紀の土器製塩』（『文化財論叢』所収，京都，昭和58年）。

第5章　まとめ

今回の試掘調査では奈良時代の瓦・土器類は出土したものの，礎石，基壇など主要伽藍と関連する遺構は発見されなかった。しかし，従来知られていなかった古墳時代後期の遺構・遺物，縄文時代・弥生時代の遺物が確認され，下層の遺跡の存在が明らかとなった。この結果，当該遺跡は縄文時代から近世にいたる複合遺跡であることが新たに判明した。

第1遺構面においては奈良時代に遡る遺構は確認できなかったが，サブトレンチ内において奈良時代の遺構面は確認することができた。林寺跡の創建期の面はこの下層の面である可能性が高い。また，田中重久氏が林寺跡の存在根拠として奈良時代の瓦の出土と基壇の可能性がある土壇の存在を挙げている。今回の調査では奈良時代の瓦は出土したが，土壇についてはわからなかった。しかし，それは町が周知の遺跡として指定した遺跡が今回の調査によって否定されたわけではなく，近辺に土壇の存在が予想される。

また，遺物について検討の結果，縄文時代晩期，弥生時代中期，弥生時代終末期，古墳時代前期，古墳時代後期～飛鳥時代，奈良時代後期～平安時代前期，平安時代後期，室町時代，江戸時代の9時期が確認できた。この内飛鳥時代以前については従来知られていなかったものである。縄文・弥生時代の遺跡についてはこれまで旧巨椋池南畔の低地部には遺跡が存在しないとされてきたが，近年久御山町市田斉当坊遺跡・佐山遺跡の調査以来，縄文時代より人間が居住し，大規模な集落が存在していたことが明らかになりつつある。旧巨椋池南畔の低地部の縄文・弥生時代の遺跡動態や社会を復元する上で今回の資料は一助となろう。また，古墳時代後期～飛鳥時代について『日本書紀』にある『栗隈大溝』が掘削された時期に当る。こうした低地の開発と関わってくる可能性があろう。『栗隈大溝』については諸説あるが，今回の成果はその位置を含め周辺の遺跡の展開を知る上で1つの検討材料となろう。

今回の調査に当っては日産自動車株式会社，ならびに日産不動産株式会社の担当の方々には大変お世話になりました。記して感謝申しあげます。また，今回の調査及び整理作業に際し，次の関係各位には格別のご教示とご協力を賜りました。記して謝意を表します（五十音順・敬称略）。

有井広幸・磯野浩光・国下多美樹・古閑正浩・小山雅人・吹田直子・関川尚功・竹原一彦・辻本清美・野島 永・藤井　整・星野佳史・森岡秀人・森　　正

京都府教育委員会・久御山町教育委員会・（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

第1表　土器・陶磁器観察表

番号	種類	遺構	遺物番号	器種	口径	残存率	器高	内面調整	外面調整	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器	第2ﾄﾚﾝﾁ P539	4-2	深鉢（口縁部）	－	－	2.2cm	摩滅により不明	摩滅により不明	1～3mm程の石英、1mmの長石、角閃石、ﾁｬｰﾄ、雲母含む	内面5Y5/4にぶい赤褐色 外面5Y5/2灰褐色 断面5Y4/1褐灰色	良	突帯が口縁直下に1条めぐる　突帯文土器（長原式）
2	弥生土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	甕（底部）	底径 4.1cm	2/3	1.8cm	摩滅により不明	摩滅により不明	1mm程度の長石、石英、ﾁｬｰﾄ、0.5mm程の雲母含む	内面2.5Y7/3浅黄色 外面2.5Y7/2灰黄色 断面2.5Y2/1黒色	良	
3	弥生土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-6	壷（胴部）	－	－	4.6cm	剥離。一部ﾖｺﾅﾃﾞ残存	剥離により不明	1mm程の長石、石英、ﾁｬｰﾄ、0.5mm程の雲母含む	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面2.5Y7/2灰黄色 断面10YR7/3にぶい黄橙色	良	5条1単位の櫛描直線文　3条1単位の櫛描きの斜格子文
4	弥生土器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-8	甕（胴部）	－	－	4.4cm	剥離。一部ﾖｺﾅﾃﾞ残存	横位ﾊｹﾒ	1mm程度の長石、石英、ﾁｬｰﾄ、0.5mm程の雲母含む	内面7.5Y7/2明褐色 外面7.5Y5/1褐灰色 断面10R6/6赤橙色	良	
5	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	壷（口縁部）	11.1cm	1/12	2.9cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、0.5mm程の雲母含む	内面N2/0黒色 外面10R5/4赤褐色 断面10R5/6赤色	良	
6	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	杯B（口縁部）	17.4cm	1/10	3.3cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ　斜位ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1mm程の輝石、雲母含む	内面5PB6/1青灰色 外面2.5Y 7／2 灰黄色 断面2.5Y5/1黄灰色	良	
7	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	杯B（底部）	底径 11.2cm	1/8	1.3cm	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面5Y4/1灰色 外面2.5Y5/1黄白色 断面10YR8/3浅黄橙色	良	
8	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	6-18	杯B（底部）	底径 12.0cm	1/5	1.7cm	ﾅﾃﾞ	胴部ﾅﾃﾞ/底部ﾊｹ	1～2mm程の赤色斑粒、長石、石英、雲母含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR7/2にぶい黄橙色 断面10YR7/3にぶい黄橙色	やや良	
9	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-1	杯B（高台部）	底径 19.4cm	1/8	1.6cm	剥離により不明	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の赤色斑粒、長石、石英、雲母含む	内面不明 外面2.5YR6/6橙色 断面5YR5/6橙色	良	
10	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-23	椀A（口縁部）	17.6cm	1/10	2.6cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の石英、輝石含む	内面7.5YR7/6橙色 外面7.5YR6/6橙色 断面2.5Y7/3浅黄色	やや良	
11	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	椀A（口縁部）	10.2cm	1/7	2.2cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	0.5mm程の長石、雲母含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面7.5YR7/4にぶい黄橙色 断面5YR5/6明赤褐色	不良	
12	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-1	皿（口縁部）	13.2cm	1/12	1.3cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	摩滅。一部ﾖｺﾅﾃﾞ残存	砂粒はほとんど含まれない	内面7.5YR7/6橙色 外面7.5YR7/6橙色 断面7.5YR7/6橙色	やや不良	
13	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	皿（口縁部）	20.0cm	1/12	1.3cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	摩滅。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	1mm程の長石、雲母含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面7.5YR7/4にぶい黄橙色 断面7.5YR7/4にぶい黄橙色	やや良	
14	土師器	第4ﾄﾚﾝﾁ	3-11	皿（口縁部）	14.2cm	1/16	2.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞの後ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	0.5mm程の長石含む	内面10R5/6赤色 外面10R5/6赤色 断面10R1.7/1赤黒色	やや良	

15	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	皿A（胴部）	底径15.4cm	1/12	1.4cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/4にぶい黄橙色 断面10YR6/3にぶい黄橙色	やや良	
16	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	高杯（底部）	15.6cm	1/8	1.9cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	0.5mm程の赤色班粒含む	内面10YR8/4浅黄橙色 外面７.5YR8/4浅黄橙色 断面10YR7/3にぶい黄橙色	良	内面に沈線が2条めぐる
17	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-17	皿（口縁部）	15.2cm	1/8	1.9cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	1mm程の赤色班粒、長石、雲母含む	内面5Y8/2灰白色 外面2.5Y8/2灰白色 断面2.5Y6/1黄灰色	良	
18	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-37	皿（口縁部）	15.0cm	1/10	2.1cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面2.5Y7/2灰黄色 外面2.5Y7/3浅黄色 断面2.5Y7/1灰白色	良	
19	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-20	皿（口縁部）	12.6cm	1/6	2.9cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の雲母含む	内面2.5Y8/3淡黄色 外面2.5Y8/4淡黄色 断面7.5YR7/2明褐灰色	良	
20	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	14.0cm	1/8	2.0cm	ﾅﾃﾞ	横位ﾅﾃ	0.5mm程の輝石、雲母含む	内面2.5Y8/1灰白色 外面2.5Y8/1灰白色 断面2.5Y8/2灰白色	やや良	
21	土師器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	皿（口縁部）	12.5cm	1/12	1.7cm	摩滅により不明	摩滅により不明	砂粒をほとんどふくまない	内面5YR8/4淡橙色 外面5YR7/4にぶい橙色 断面5YR6/3にぶい橙色	不良	
22	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	4-30	皿（口縁部）	13.4cm	1/8	2.0cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	剥離。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	1mm程の赤色班粒、長石、雲母微量含む	内面10YR8/4浅黄橙色 外面10YR8/3浅黄橙色 断面2.5Y7/1灰白色	良	外面に沈線が一条めぐる
23	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-7	皿（口縁部）	10.0cm	1/8	1.4cm	剥離。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	剥離。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	0.5mm程の長石、雲母含む	内面2.5Y7/3浅黄色 外面2.5Y7/2灰黄色 断面2.5Y7/3浅黄色	不良	
24	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-37	皿（口縁部）	9.0cm	1/6	1.6cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	剥離により不明	1mm程の赤色班粒、雲母含む	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR8/2灰白色 断面10YR8/3浅黄橙色	やや不良	
25	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	8.4cm	1/4	1.5cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	1mm程の石英、雲母含む	内面10YR8/4浅黄橙色 外面10YR8/4浅黄橙色 断面10YR8/4浅黄橙色	やや不良	
26	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	8.0cm	1/8	1.2cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	剥離により不明	1mm程の赤色班粒、0.5mm程の雲母含む	内面7.5YR8/4浅黄橙色 外面7.5YR8/4浅黄橙色 断面7.5YR8/4浅黄橙色	不良	
27	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部～底部）	6.0cm	1/8	1.2cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	0.5mm程の赤色班粒、雲母含む	内面2.5Y8/2灰白色 外面2.5Y7/3淡黄色 断面2.5Y8/2灰白色	やや不良	
28	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	9.2cm	1/8	1.8cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	0.5mm程の赤色班粒、雲母含む	内面10YR4/1褐灰色 外面2.5Y6/2灰黄色 断面10YR4/1褐灰色	やや不良	
29	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	12.0cm	1/8	1.0cm	摩滅。一部ﾖｺﾅﾃﾞ残存	摩滅により不明	0.5mm程の長石、雲母含む	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/3にぶい黄橙色 断面10YR7/3にぶい黄橙色	やや不良	

30	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部）	10.0cm	1/12	0.8cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	砂粒はほとんど含まれない	内面10YR8/2灰白色 外面10YR6/3にぶい黄橙色 断面10YR8/2灰白色	不良	
31	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部～底部）	12.4cm	1/8	1.3cm	摩滅。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	摩滅。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	0.5mm程の赤色斑粒、雲母含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR7/4にぶい黄橙色 断面10YR7/1灰白色	やや良	
32	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-6	皿（口縁部）	11.6cm	1/10	0.9cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm大の石英、輝石含む	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面10YR6/4にぶい黄橙色 断面10YR7/2にぶい黄橙色	良	
33	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-6	皿（口縁部）	9.4cm	1/8	1.3cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、輝石含む	内面10YR6/6明黄褐色 外面10YR7/4にぶい黄橙色 断面10Y6/2灰黄褐色	やや良	
34	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-20	皿（口縁部）	10.0cm	1/6	1.0cm	摩滅により不明	摩滅により不明	0.5mm程の長石、石英、雲母含む	内面2.5Y7/4浅黄色 外面2.5Y7/4浅黄色 断面2.5Y7/4浅黄色	やや不良	
35	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-38	皿（口縁部～底部）	9.0cm	1/8	1.0cm	摩滅。口縁部にﾖｺﾅﾃﾞ残存	摩滅により不明	0.5mm程の赤色斑粒、雲母含む	内面5Y7/2灰白色 外面5Y7/2灰白色 断面5Y7/2灰白色	やや良	
36	土師器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-17	台付皿（脚台部）	底径10.2cm	1/6	3.6cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	0.5mm程の石英、雲母、1mm程の雲母含む	内面2.5Y8/3浅黄色 外面2.5Y8/2灰白色 断面2.5Y7/2灰黄色	やや良	
37	須恵器	第3ﾄﾚﾝﾁ	2-26	杯H蓋（天井部）	－	－	1.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	自然釉により確認不可	0.5mm程の長石、石英含む	内面N5/0灰色 外面5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色 断面N5/0灰色	良	
38	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-15	杯H蓋（口縁部）	10.0cm	1/8	2.3cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の輝石、長石含む	内面N7/0灰白色 外面N6/0灰色 断面N7/0灰白色	良	
39	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ SK177	1-6	杯H身（口縁部）	14.2cm	1/6	3.3cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ一部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1mm程の長石含む	内面N6/0灰色 外面N6/0灰色 断面N6/0灰色	良	
40	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-31	杯H身（口縁部）	13.4cm	1/8	2.7cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N6/0灰色 外面N6/0灰色 断面N7/0灰白色	良	
41	須恵器	第4ﾄﾚﾝﾁ	6-5	杯H身（口縁部）	11.0cm	1/6	3.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/底部静止ﾍﾗｹｽﾞﾘ残る	1～2mm程の輝石、長石、雲母含む	内面2.5Y7/1灰白色 外面2.5Y7/2灰黄色 断面2.5Y7/3浅黄色	やや良	
42	須恵器	第3ﾄﾚﾝﾁ	2-26	杯H身（口縁部）	9.2cm	1/5	2.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5mm程の輝石、長石、雲母含む	内面5Y5/1灰色 外面5Y6/1灰色 断面5Y5/1灰色	良	
43	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ SK177	1-5	杯H身（口縁部）	10.4cm	1/8	2.1cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5mm程の石英含む	内面5B4/1暗青灰色 外面5B6/1青灰色 断面N6/0灰色	良	
44	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-15	杯G蓋（口縁部）	10.8cm	1/6	1.6cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5mm程の長石、雲母含む	内面７.5Y７/1灰色 外面5Y6/1灰色 断面5Y７/1灰白色	良	

45	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	3-2	杯B蓋（口縁部）	16.4cm	1/10	1.25cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英含む	内面N7/0灰白色 外面N6/0灰色 断面10Y7/1灰白色	良	
46	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-7	杯B蓋（口縁部）	19.0cm	1/8	2.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞの後天井部3/4回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1mm程の長石、雲母含む	内面N6/0灰色 外面N5/0灰色 断面2.5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色	良	
47	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-7	杯B蓋（口縁部）	17.0cm	1/10	1.4cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞの後天井部3/4回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面5PB6/1青灰色 外面5P6/1紫灰色 断面2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色	良	
48	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ P166	6-15	杯B蓋（口縁部）	14.0cm	1/6	2.1cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5～1mm程の長石、石英含む	内面5Y7/1灰白色 外面7.5Y7/1灰白色 断面2.5Y7/1灰白色	やや良	
49	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-17	杯B蓋（口縁部）	15.6cm	1/8	1.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の雲母含む	内面N7/0灰白色 外面N6/0灰色 断面5Y7/2灰白色	良	
50	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	6-13	杯AｏｒB（口縁部）	14.4cm	1/6	4.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1～2mm程の長石、石英、1mm程の雲母含む	内面10Y7/1灰色 外面7.5Y7/1灰白色 断面7.5Y7/2灰色	良	
51	須恵器	第3ﾄﾚﾝﾁ	2-26	杯B身（口縁部）	14.4cm	1/8	3.1cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、雲母含む	内面5Y6/1灰色 外面7.5Y6/1灰色 断面5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色	良	
52	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-9	杯B身（口縁部）	14.0	1/8	3.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1～2mm程の長石、1mm程の輝石、石英含む	内面N6/0灰色 外面10Y4/1灰色 断面7.5Y7/1灰白色	良	
53	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-2	杯B身（高台部）	底径14.0cm	1/10	1.4cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	砂粒を含まない	内面N6/0灰色 外面N6/0灰色 断面N7/0灰白色	良	
54	須恵器	第4ﾄﾚﾝﾁ	6-5	杯B身（底部）	底径9.6cm	1/8	1.7cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、輝石、雲母含む	内面10Y7/1灰白色 外面N6/0灰色 断面N7/0灰白色	良	
55	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-15	杯B身（底部）	底径6.0cm	1/8	1.4cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の石英、雲母含む	内面N6/0灰色 外面N4/0灰色　N5/0灰色 断面N7/0灰白色	良	
56	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	6-13	すり鉢（口縁部）	13.0cm	1/7	3.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、輝石、雲母含む	内面N6/0灰色 外面N6/0灰色 断面7.5Y7/1灰白色	良	
57	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-14	皿（口縁部）	15.2cm	1/10	1.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	砂粒をほとんど含まない	内面10G1.7/1緑黒色 外面5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色 断面5Y7/2灰白色	良	
58	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-11	杯A（底部）	底径13.5cm	1/8	1.0cm	胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/底部ﾅﾃﾞ	胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/底部糸切り痕をﾅﾃﾞ消し	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面5Y7/1灰色 外面7.5Y7/1灰白色 断面5Y7/1灰白色	良	

59	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-17	壺（胴部）	胴径14.6cm	-	3.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	施釉により確認不可	1mm程の雲母含む	内面2.5Y7/1灰白色 外面7.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色（釉） 断面5Y7/1灰白色	良	
60	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-2	甕（口縁部）	20.2cm	1/12	4.3cm	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/胴部同心円文ﾀﾀｷ	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/胴部平行文ﾀﾀｷ	1mm程の長石、石英、雲母含む	5BG6/1青灰色 7.5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色（釉） 7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色	良	
61	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-2	甕（口縁部）	26.0cm	1/10	4.7cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面10G6/1緑灰色 外面5BG6/1青灰色 断面2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色	良	
62	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-11	甕（口縁部）	25.0cm	1/8	2.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	自然釉により確認不可	1mmの雲母少量含む	内面2.5Y7/1灰白色 外面7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色（釉） 断面5Y7/1灰白色	良	
63	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-15	壺（口縁部）	16.0cm	1/8	2.3cm	自然釉により確認不可	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の輝石含む	内面5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色 外面5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色 断面5Y7/1灰白色	良	
64	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-14	壺（口縁部）	10.7cm	1/8	1.9cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5～1mm程の長石、石英含む	内面10YR6/2灰黄褐色 外面5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色 断面10YR6/4にぶい黄橙色	良	
65	須恵器	第2ﾄﾚﾝﾁ	6-13	壺（底部）	底径10.4cm	1/10	3.1cm	自然釉により確認不可	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	砂粒をほとんど含まない	内面2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色（釉） 外面N5/0灰色 断面5Y7/1灰白色	良	
66	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ SK177	1-6	甕（胴部）	－	－	5.1cm	同心円文ﾀﾀｷ	平行文ﾀﾀｷの後ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石含む	内面5Y6/1灰色 外面5Y7/1灰白色 断面5Y6/1灰色	良	
67	須恵器	第1ﾄﾚﾝﾁ SD107	6-16	甕（口縁部）	48.0cm	1/15	3.5cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ。頸部に櫛描波状文	1mm程の石英、雲母含む	内面N5/0灰色 外面N4/0灰色 断面5RP5/1紫灰色	良	
68	須恵器	第3ﾄﾚﾝﾁ P320	6-24	壺L（底部）	底径3.8cm	－	2.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/底部回転糸切り痕	砂粒をほとんど含まない	内面5Y6/1灰色 外面5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色 断面5Y7/1灰白色	良	
69	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	15.2cm	1/20	4.9cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ/胴部部分的に横位又は斜位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	0.5mm程の長石、石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面5Y8/1灰白色	良	口縁内面に沈線一条
70	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	15.8cm	1/6	4.6cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴上部横位又は斜位ﾍﾗﾐｶﾞｷ一部残存/胴下位磨滅により不明	0.5mm程の赤色斑粒、石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面N8/0灰白色	良	口縁内面に沈線一条
71	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	15.0cm	1/8	4.4cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅。一部横位又は斜位のﾍﾗﾐｶﾞｷ残存	1mm程度の石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面2.5Y8/1灰白色	良	口縁内面に沈線一条
72	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	14.6cm	1/12	3.9cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ/磨滅。一部横位又は斜位ﾍﾗﾐｶﾞｷ残存	1mm程度の長石、石英、0.5mm程の雲母含む	内5PB4/1暗青灰色 外面N5/0灰色 断面2.5Y8/2灰白色	良	口縁内面に沈線一条

73	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	15.2cm	1/22	2.6cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	剥離。口縁部横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ残存	0.5mm程の赤色斑粒、長石、石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N3/0暗灰色 断面2.5Y8/1灰白色	良	口縁内面に沈線一条
74	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	14.8cm	1/16	3.0cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横位又は斜位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	0.5mm程の雲母含む	内面5PB3/1暗青灰色 外面5PB3/1暗青灰色 断面5Y8/0灰白色	良	口縁内面に沈線一条
75	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	16.0cm	1/10	2.7cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴上部斜位ﾍﾗﾐｶﾞｷ/胴中位摩滅により不明	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面N7/0灰白色	良	口縁内面に沈線一条
76	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	15.4cm	1/8	1.9cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色 断面N8/0灰白色	良	口縁内面に沈線一条
77	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	12.6cm	1/12	2.1cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色 断面N8/0灰白色	良	口縁内面に沈線一条
78	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（口縁部）	13.2cm	1/20	1.6cm	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横位ﾍﾗﾐｶﾞｷ	0.5mm程の雲母含む	内面N5/0灰色 外面N4/0灰色 断面5Y8/1灰白色	良	口縁内面に沈線一条
79	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（底部）	底径 5.6cm	1/4	0.6cm	摩滅により不明	摩滅、高台部にﾅﾃﾞ一部残存	0.5mm程の雲母含む	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色 断面2.5Y8/2灰白色	良	
80	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（底部）	底径 5.8cm	1/6	1.0cm	ﾅﾃﾞ	胴部ﾖｺﾅﾃﾞ/ 底部ﾅﾃﾞ	0.5～1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面2.5Y8/1灰白色	良	底内面みこみに暗文一部残存
81	瓦器	第3ﾄﾚﾝﾁ	2-27	椀（底部）	－	－	0.8cm	摩滅により不明	摩滅。一部ﾅﾃﾞ残存	砂粒を含まない	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色 断面5Y8/1灰白色	良	
82	瓦器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（底部）	底径 6.0cm	1/4	0.8cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	0.5mm程の長石、雲母含む	内面N4/0灰色 外面N4/0灰色 断面5Y8/1灰白色	良	底内面みこみに暗文一部残存
83	瓦器	第3ﾄﾚﾝﾁ SD303	5-22	椀（底部）	底径 8.0cm	1/6	1.0cm	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ 高台外面に横位のﾍﾗﾐｶﾞｷあり	0.5mm程の雲母含む	内面N5/0暗灰色 外面5Y6/1灰色 断面N7/0灰白色	良	底内面みこみに暗文一部残存
84	黒色土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	椀（底部）	底径 8.6cm	1/8	0.8cm	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	0.5mm程の角閃石、長石、石英、雲母含む	内面N2/0黒色 外面10YR7/2灰黄褐色 断面10YR3/2黒褐色	良	底内面みこみに暗文
85	瓦質土器	第4ﾄﾚﾝﾁ	3-34	羽釜（口縁部）	27.0cm	1/20	4.7cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、0.5mm程雲母含む	内面10BG1.7/1青黒色 外面N4/0灰色 断面2.5Y7/1灰白色	良	外面に沈線三条
86	瓦質土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-40	深鉢（口縁部）	34.2cm	1/20	2.6cm	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	1mm程の長石、石英、雲母含む	内面N3/0暗灰色 外面N3/0暗灰色 断面N7/0灰白色	良	
87	緑釉陶器	第1ﾄﾚﾝﾁ	6-6	皿（口縁部）	15.2cm	1/10	0.6cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/胴部上位回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	0.5mm程の雲母含む	内面淡緑色 外面淡緑色 断面10YR7/1灰白色	良	東海産。陰刻花文が一部残存

88	灰釉陶器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-37	椀（口縁部）	16.0cm	1/8	3.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1mm程の輝石、長石、石英含む	内面2.5Y7/1灰白色、2.5Y6/1黄灰色 外面2.5Y7/1灰白色、2.5Y6/1黄灰色 断面2.5Y6/1黄灰色	良	灰釉は口縁から胴部上半にうすくかかる
89	灰釉陶器	第2ﾄﾚﾝﾁ	4-4	椀（底部）	底径7.6cm	1/6	1.2cm	ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	0.5mm程の石英、雲母含む	内面5Y8/1灰白色 外面2.5Y8/1灰白色 断面5Y7/1灰白色	良	釉は淡緑色の灰釉
90	陶器	第1ﾄﾚﾝﾁ SD131	6-17	瀬戸美濃天目茶碗（口縁部）	8.2cm	1/4	3.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ/胴部下半回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1mm程の輝石、石英含む	内面2.5Y4/3にぶい赤褐色 外面2.5Y4/3にぶい赤褐色 (露胎)10YR7/4にぶい黄橙色　断面10YR8/2灰白色	良	鉄釉が施されている
91	磁器	第2ﾄﾚﾝﾁ	4-6	白磁碗（口縁部）	13.8cm	1/10	2.0cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	砂粒を含まない	内面2.5Y7/2灰黄色 外面2.5Y7/2灰黄色 断面2.5Y8/3淡黄色	良	玉縁碗
92	磁器	第3ﾄﾚﾝﾁ SD303	5-22	肥前染付碗（口縁部）	10.0cm	1/20	2.9cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	砂粒を含まない	内面白色 外面白色 断面白色	良	呉須により外面に菊花、内面口縁直下に圏線を描く
93	磁器	第1ﾄﾚﾝﾁ SD169	6-10	肥前染付碗（胴部）	—	—	2.8cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	砂粒を含まない	内面白色 外面白色 断面白色	良	呉須により外面に網目文
94	磁器	第1ﾄﾚﾝﾁ SD168	5-14	瀬戸染付杯（口縁部）	8.4cm	1/5	2.9cm	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	砂粒を含まない	内面白色 外面白色 断面N7/0灰白色	良	外面胴部中位に一ヶ所隷書体文様
95	製塩土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-30	製塩土器（胴部）	13.6cm	1/8	4.9cm	布目圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ	1～3mm程の長石、石英、ﾁｬｰﾄ、0.5mm程の雲母含む	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/3にぶい黄橙色 断面2.5R5/1黄灰色	良	
96	製塩土器	第2ﾄﾚﾝﾁ	1-31	製塩土器（胴部）	18.8cm	1/24	7.2cm	布目圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ。指頭圧痕あり	0.5mm程の長石、石英含む	内面10R5/6赤色 外面5PB3/1暗青灰色 断面10R5/3赤褐色	良	

第2表　瓦観察表

番号	ﾄﾚﾝﾁ名	遺物番号	種類	厚さ	長さ	凸面調整	凹面調整	側面	胎土	色調	焼成
99	第2ﾄﾚﾝﾁ	1-14	軒丸瓦（瓦当部）	3.2～4.7cm	7.6cm	横位ﾅﾃﾞ　横位ﾍﾗｹｽﾞﾘ　ﾀﾀｷ目なし	横位ﾅﾃﾞ　横位ﾍﾗｹｽﾞﾘ　布目痕なし		0.5～1mmの長石・石英・雲母含む	表面5Y7/1灰白色　断面7.5Y7/2灰白色	硬質
100	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-15	丸瓦（玉縁部）	丸瓦1.6cm 玉縁1.6cm	5.7cm	横位ﾅﾃﾞ　ﾀﾀｷ目なし	布目痕　ひも状の痕跡あり	縦位ｹｽﾞﾘ	1mm以下の長石・石英・雲母含む	表面5Y6/1灰色　断面7.5YR7/8黄橙色	やや硬質
101	第1ﾄﾚﾝﾁ	1-19	平瓦	1.6cm	5.3cm	縦位ｹｽﾞﾘ	細かい布目痕		1mm以下の長石・雲母含む	凸面5B6/1青灰色　凹面10GY5/1緑灰色　断面7.5YR7/8黄橙色	硬質
102	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-5	丸瓦	(2.2cm)	5.8cm	剥離により不明	細かい布目痕		1～2mmの長石・石英、1mm以下の雲母含む	表面5Y7/2灰白色　断面7.5YR6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色	やや硬質
103	第2ﾄﾚﾝﾁ	2-34	平瓦（端部）	2.1cm	4.9cm	縄目ﾀﾀｷ	細かい布目痕　面取り	ｹｽﾞﾘ	1mm以下の長石・石英・雲母含む	表面5Y7/1灰白色　断面N8/0灰白色	硬質
104	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-13	平瓦	1.4cm	6.5cm	摩滅により不明	摩滅・剥離により不明		1～2mmの長石・石英・雲母、1mm以下の赤色斑粒含む	表面10YR8/2灰白色　断面2.5Y6/1黄灰色	軟質
105	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-13	丸瓦（端部）	1.8cm	4.4cm	横位ﾅﾃﾞ	縦位ｹｽﾞﾘ	縦位ｹｽﾞﾘ	0.5～2mmの長石・石英、1mm以下の赤色斑粒・雲母含む	凸面7.5YR7/4にぶい橙色　凹面・断面2.5Y7/1灰白色	軟質
106	第1ﾄﾚﾝﾁ	4-20	平瓦（端部）	1.7cm	4.0cm	剥離により不明	布目痕　面取り		1～2mmの長石・石英・雲母、1mm以下の赤色斑粒含む	凸面2.5YR6/8橙色　凹面2.5Y4/1黄灰色　断面5YR6/4にぶい橙色	軟質
107	第3ﾄﾚﾝﾁ	5-23	平瓦（端部）	1.7cm	3.5cm	横位ﾅﾃﾞ	布目痕	縦位ｹｽﾞﾘ	1mmの石英、0.5 mm以下の長石含む	表面5Y4/1灰色　断面5Y7/1灰白色	硬質
108	第3ﾄﾚﾝﾁ	5-42	平瓦（端部）	1.6cm	2.5cm	縦位ｹｽﾞﾘ	布目痕　面取り	ｹｽﾞﾘ	1mm以下の長石・雲母含む	表面・断面5Y8/1灰白色に2.5Y6/6明黄褐色が斑状に入る	やや軟質

図　　版

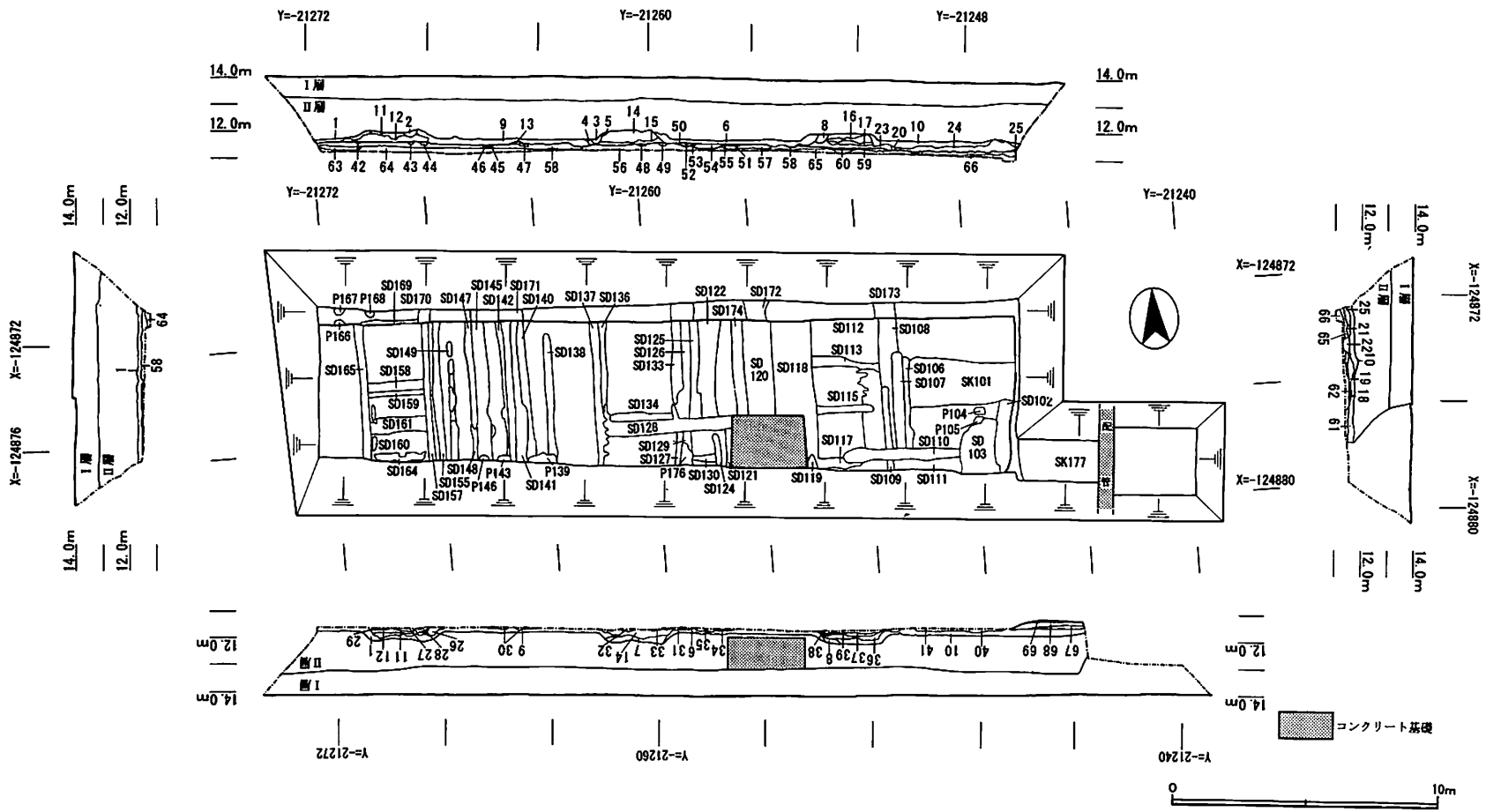
第１トレンチ　層序

Ⅲ層

1:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
2:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
3:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD136埋土。炭化粒含む）
4:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD137埋土。炭化粒，礫含む）
5:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
6:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
7:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥
8:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
9:2.5Y4/1黄灰色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
10:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
11:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
12:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
13:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（礫含む）
14:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
15:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
16:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（礫含む）
17:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
18:2.5Y4/3黄褐色砂泥（炭化粒，礫含む）
19:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（炭化粒含む）
20:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
21:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
22:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
23:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
24:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
25:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
26:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
27:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
28:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
29:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
30:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
31:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（炭化粒含む）
32:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
33:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
34:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（礫含む）
35:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（炭化粒含む）
36:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
37:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
38:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
39:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
40:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
41:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）

Ⅳ層

42:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD165埋土。礫含む）
43:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD157埋土。礫含む）
44:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD155埋土。炭化粒，礫含む）
45:2.5Y4/1黄灰色砂泥（礫含む）
46:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（礫含む）
47:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD140埋土。礫含む）
48:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
49:2.5Y4/1黄灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
50:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（SD133埋土。炭化粒含む）
51:2.5Y4/1黄灰色砂泥（炭化粒含む）
52:7.5Y4/1灰色砂泥（SD126埋土。炭化粒含む）
53:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD125埋土。炭化粒，礫含む）
54:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD122埋土。炭化粒含む）
55:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD121埋土。炭化粒含む）
56:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
57:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD120埋土。炭化粒含む）
58:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
59:5Y4/1灰色砂泥（礫含む）
60:5Y4/1灰色泥土
61:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（SD102埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
62:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SK101埋土。礫含む）
63:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
64:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
65:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（炭化粒含む）
66:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
67:5GY3/1暗ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（SK177埋土）
68:5G4/1暗緑灰色泥土（SK177埋土）
69:10G5/1緑灰色泥土（SK177埋土）



第１トレンチ平面図・断面図（1/250）

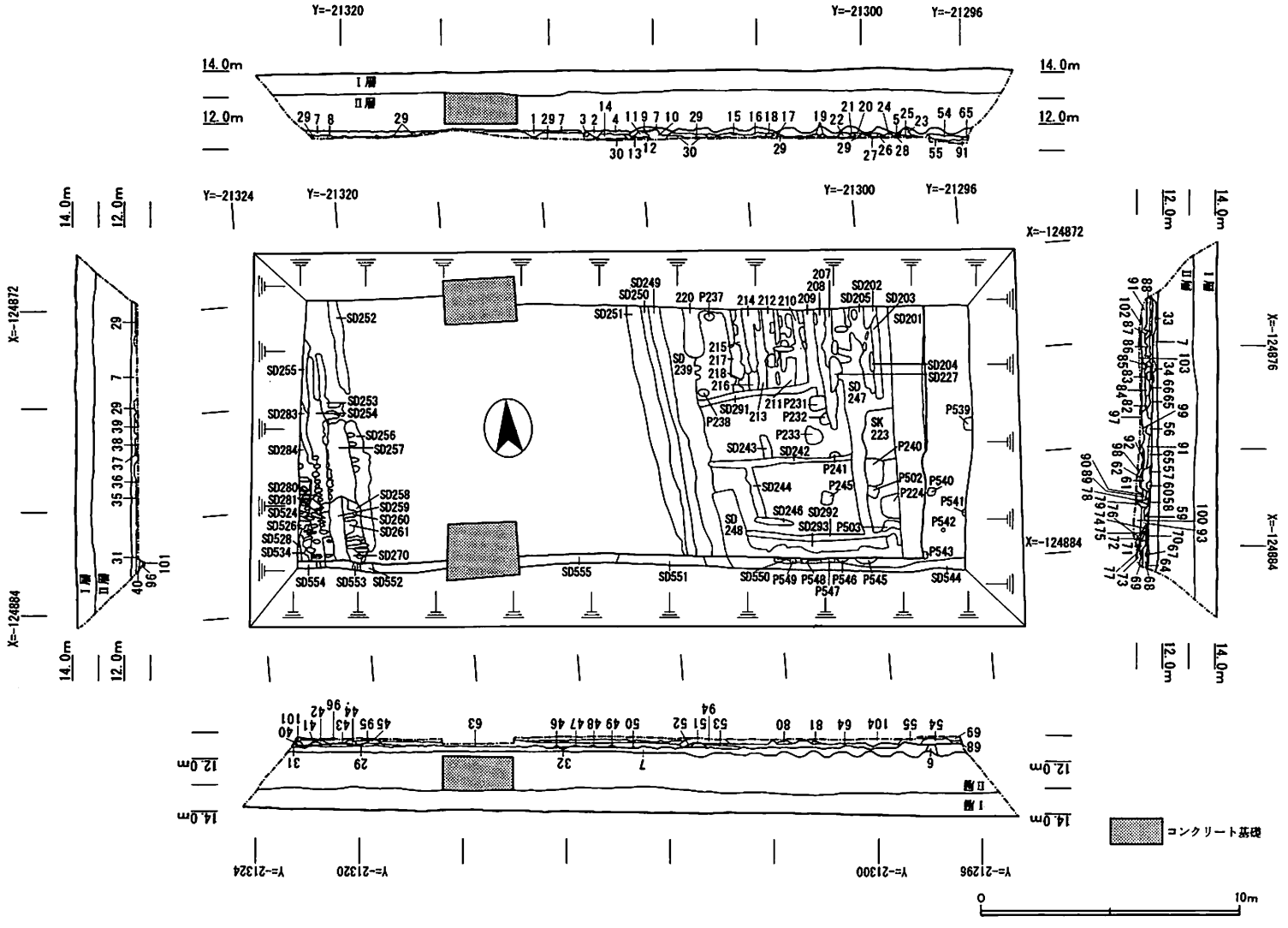
第２トレンチ　層序

Ⅲ層

1:2GY3/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
2:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
3:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
4:10Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
5:2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
6:2.5GY3/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（礫含む）
7:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
8:2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（礫含む）
9:2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
10:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
11:5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（炭化粒含む）
12:5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
13:10Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
14:5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（炭化粒含む）
15:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
16:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
17:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
18:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
19:2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
20:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
21:10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
22:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
23:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
24:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
25:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
26:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
27:10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（礫含む）
28:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
29:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
30:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
31:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（礫含む）
32:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥
33:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
34:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
35:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
36:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
37:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
38:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
39:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）

Ⅳ層

40:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（礫含む）
41:10Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（炭化粒，礫含む）
42:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
43:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（暗緑灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
44:7.5GY3/1暗緑灰色砂泥（暗灰黄色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
45:5Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
46:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥砂（礫含む）
47:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
48:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
49:7.5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（炭化粒含む）
50:7.5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（炭化粒，礫含む）
51:5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（炭化粒，礫含む）
52:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
53:5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
54:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
55:5G4/1暗緑灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
56:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
57:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
58:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（礫含む）
59:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
60:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
61:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
62:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
63:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
64:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
65:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
66:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（礫含む）
67:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
68:5Y4/1灰色砂泥（礫含む）
69:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
70:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（礫含む）
71:5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
72:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
73:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
74:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
75:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
76:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
77:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
78:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
79:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色泥砂（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
80:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
81:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
82:2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
83:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
84:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（炭化粒，礫含む）
85:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
86:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
87:5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
88:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（炭化粒含む）
89:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
90:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
91:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
92:2.5Y4/1黄灰色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
93:2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色泥砂（炭化粒含む）
94:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
95:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ,炭化粒,礫含む）
96:10GY3/1暗緑灰色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
97:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（炭化粒含む）
98:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥砂（炭化粒含む）
99:2.5Y4/1黄灰色泥土（礫含む）
100:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（礫含む）
101:2.5Y3/1黒褐色砂泥（炭化粒含む）
102:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥土（炭化粒含む）
103:2.5Y4/2暗灰黄色砂泥（炭化粒，礫含む）
104:10Y4/1灰色砂泥（礫含む）



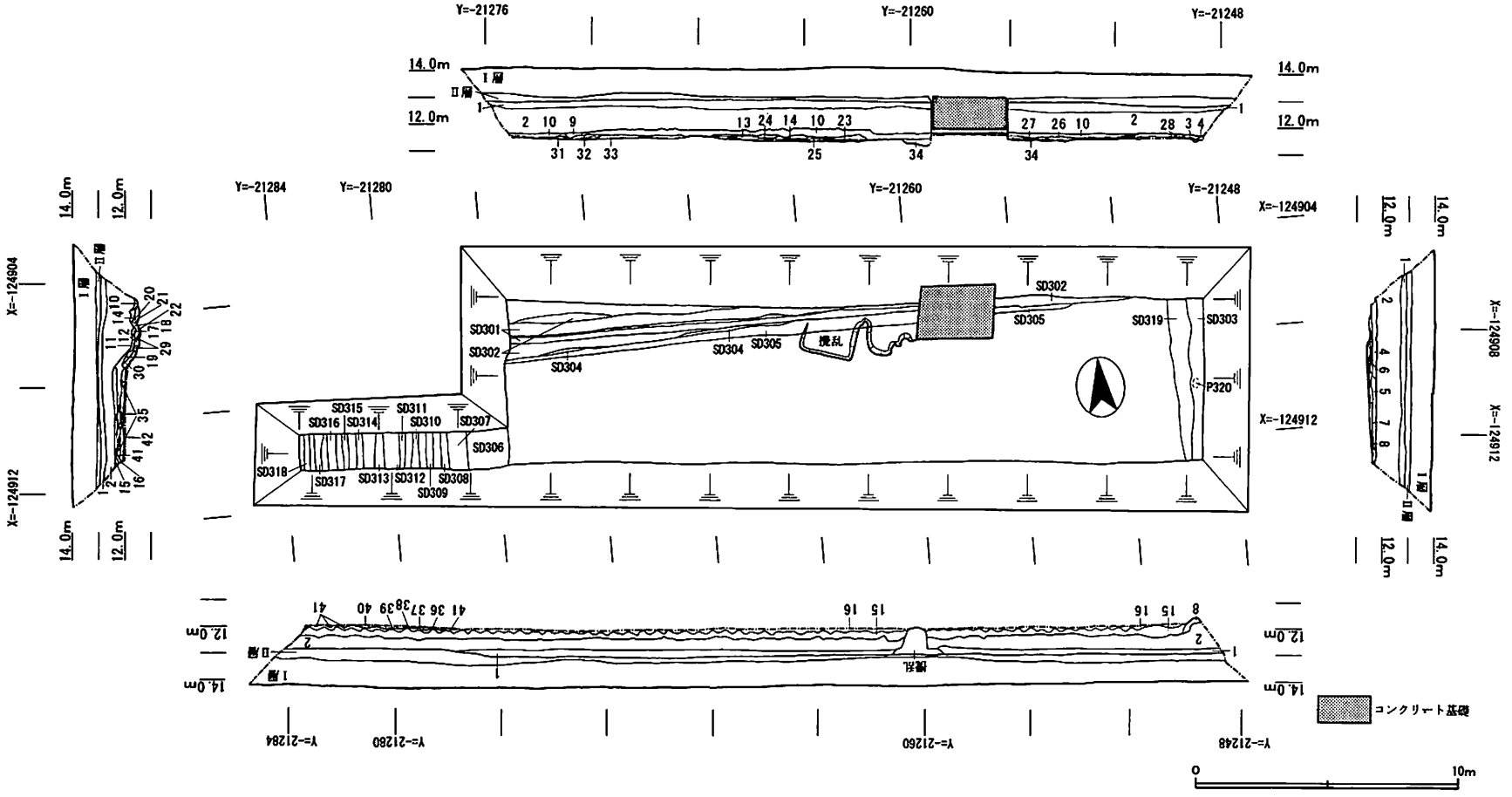
第２トレンチ平面図・断面図（1/250）

図版11

第３トレンチ　層序

Ⅲ層

1:10YR4/4褐色砂泥（礫含む。旧耕作土）
2:10YR5/4黄褐色泥土・10YR6/6明黄褐色泥砂・5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色泥砂・10YR3/4暗褐色泥土・2.5Y7/4浅黄色砂泥の互層（島畠の盛土層）
3:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土。礫含む）
4:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土。炭化粒含む）
5:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土）
6:7.5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土。炭化粒含む）
7:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土。炭化粒，礫含む）
8:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD303埋土）
9:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
10:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（ｵﾘｰﾌﾞ黒色ﾌﾞﾛｯｸ含む）
11:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD301埋土。礫含む）
12:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD301埋土）
13:7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD301埋土。礫含む）
14:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD301埋土。炭化粒含む）
15:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
16:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
17:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD302埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色ﾌﾞﾛｯｸ含む）
18:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD302埋土。炭化粒，礫含む）
19:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD302埋土）
20:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
21:7.5Y4/1灰色砂泥（炭化粒含む）
22:7.5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD304埋土）
23:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD302埋土）
24:7.5Y5/1灰色砂泥（SD302埋土）
25:5BG4/1暗青灰色砂泥（SD302埋土）
26:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD302埋土。礫含む）
27:5Y4/1灰色砂泥（SD302埋土）
28:2.5Y6/2灰黄色砂泥（SD319。炭化粒含む）
29:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD304埋土。礫含む）
30:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD305埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
31:7.5Y4/1灰色砂泥（礫含む）
32:7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
33:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
34:5Y4/1灰色砂泥（SD304埋土）
35:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
36:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD308埋土）
37:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD309埋土。灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
38:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD310埋土）
39:7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD313埋土）
40:7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD315埋土）
41:10Y4/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
42:5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥



第３トレンチ平面図・断面図（1/250）

川新図

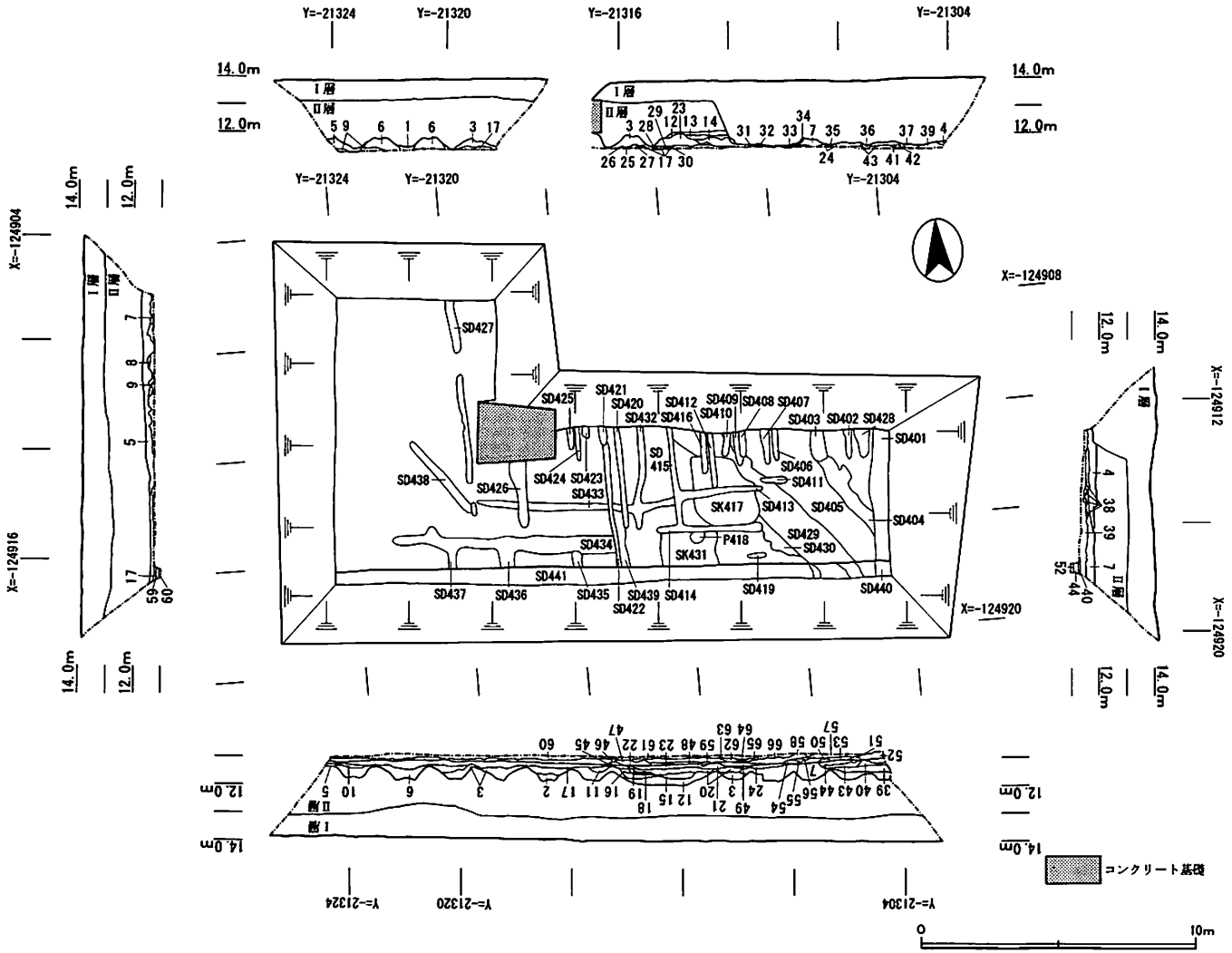
第４トレンチ　層序

Ⅲ層

1:2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
2:5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
3:7.5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（暗緑灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
4:5Y3/3ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
5:2.5GY3/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
6:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗青灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
7:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
8:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
9:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
10:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
11:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
12:5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（暗緑灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
13:7.5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，礫含む）
14:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
15:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
16:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
17:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
18:5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
19:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
20:5Y5/4ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
21:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
22:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
23:5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
24:7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
25:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD424埋土。）
26:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD425埋土。炭化粒含む）
27:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD423埋土。炭化粒含む）
28:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD421埋土。炭化粒含む）
29:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD420埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
30:10Y4/1灰色砂泥（炭化粒，礫含む）
31:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD416埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
32:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD412埋土。炭化粒含む）
33:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD410埋土。礫含む）
34:2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒含む）
35:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD406埋土。炭化粒含む）
36:5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（SD403埋土。暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ含む）
37:5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥（SD428埋土。ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
38:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
39:5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
40:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
41:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
42:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD402埋土。礫含む）
43:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂泥ﾌﾞﾛｯｸ，炭化粒，礫含む）
44:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）

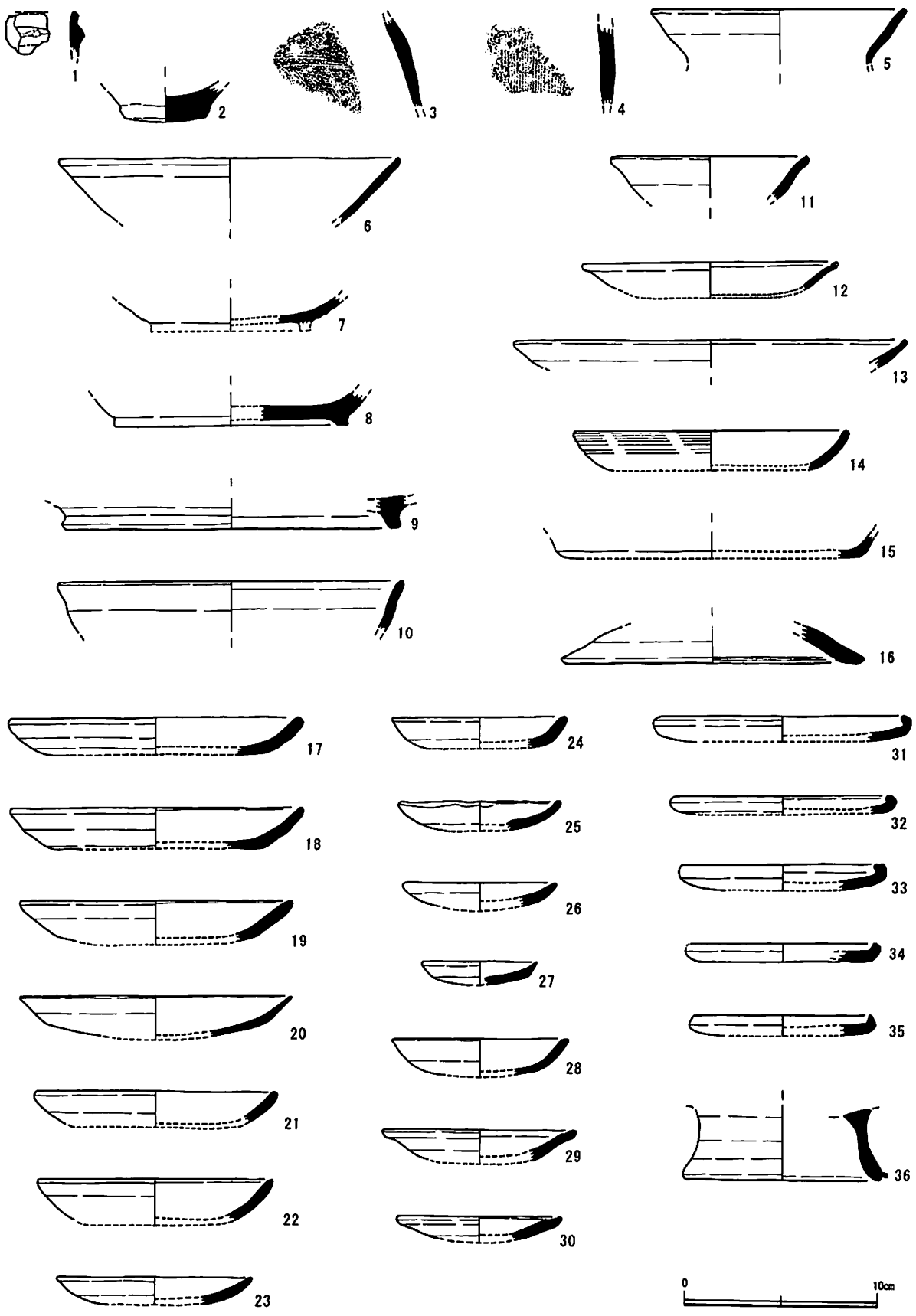
Ⅳ層

45:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
46:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
47:7.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
48:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SK431埋土。礫含む）
49:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
50:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
51:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（SD401埋土）
52:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD401埋土）
53:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（SD429埋土。礫含む）
54:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（SD429埋土）
55:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD429埋土。炭化粒含む）
56:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（SD429埋土。炭化粒含む）
57:5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥（SD429埋土）
58:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
59:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（礫含む）
60:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
61:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒，礫含む）
62:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
63:5Y4/4暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥（炭化粒含む）
64:5Y4/3暗ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
65:5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂泥
66:7.5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色砂泥

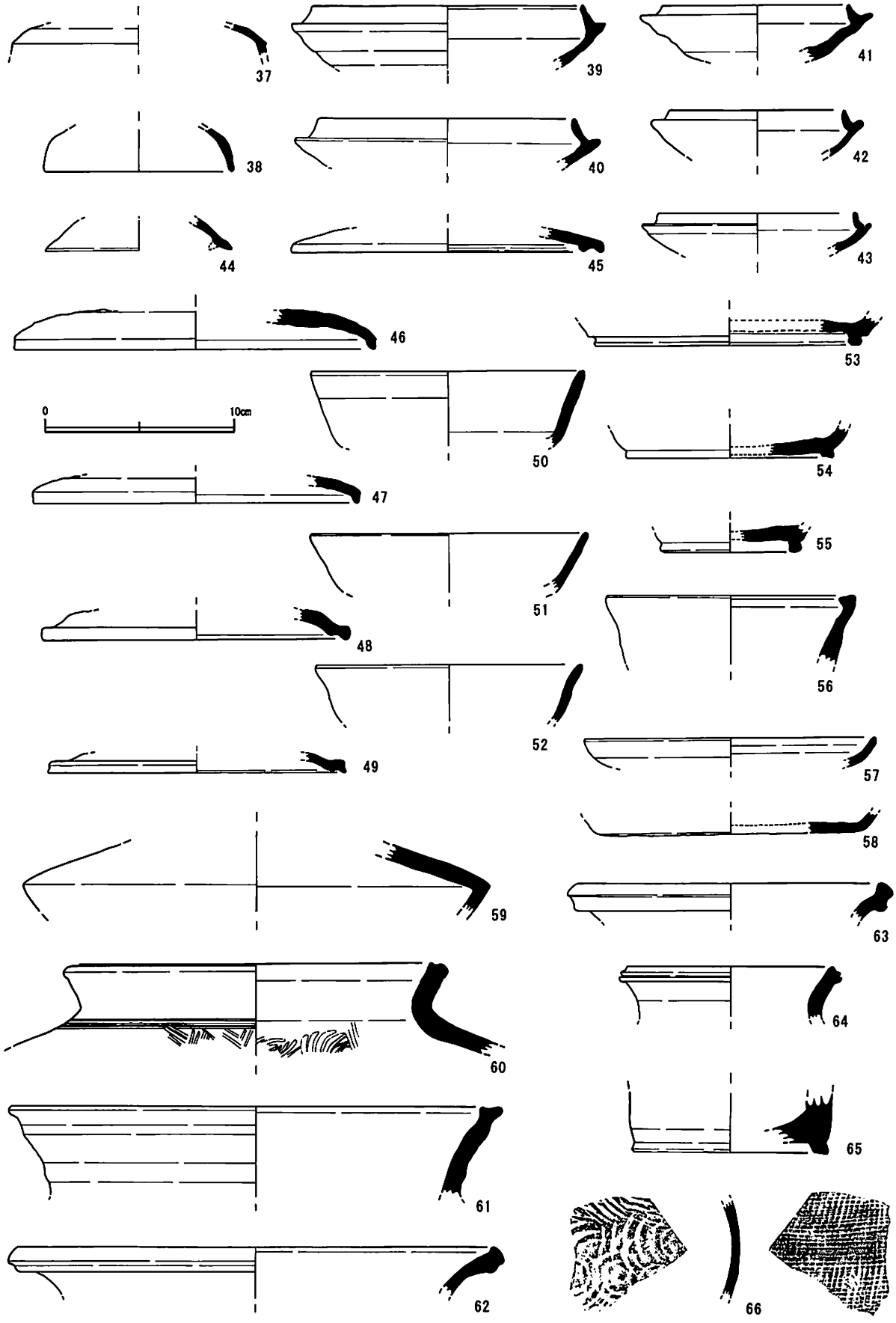


第４トレンチ平面図・断面図（1/250）

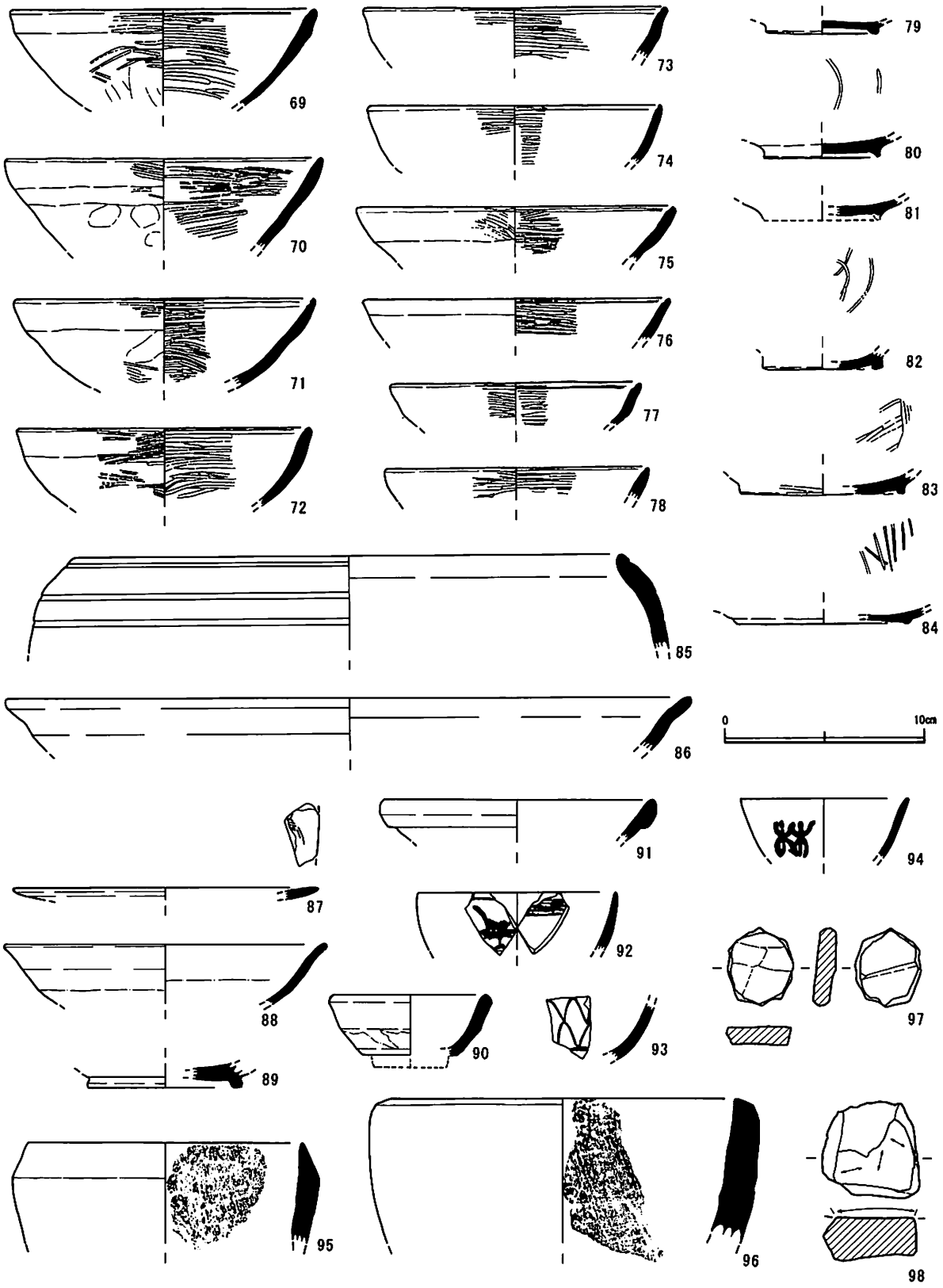
図版四



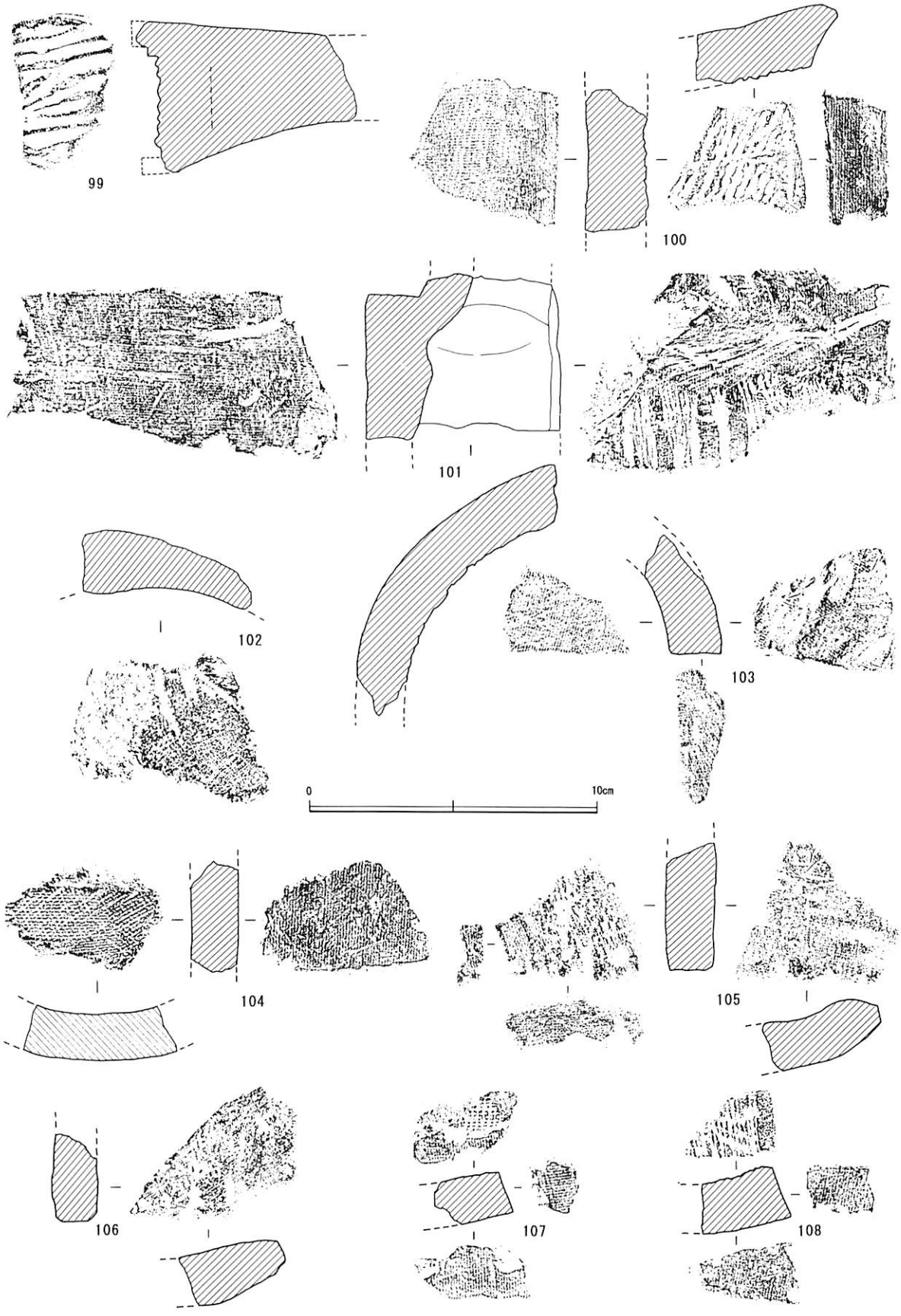
縄文土器・弥生土器・土師器実測図（1/3）


37
39
41
38
40
42
44
45
43
46
53
0
10cm
50
54
47
55
51
48
56
52
49
57
58
59
63
60
64
61
65
62
66

須恵器実測図（1/3）



黒色土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品実測図（1/3）

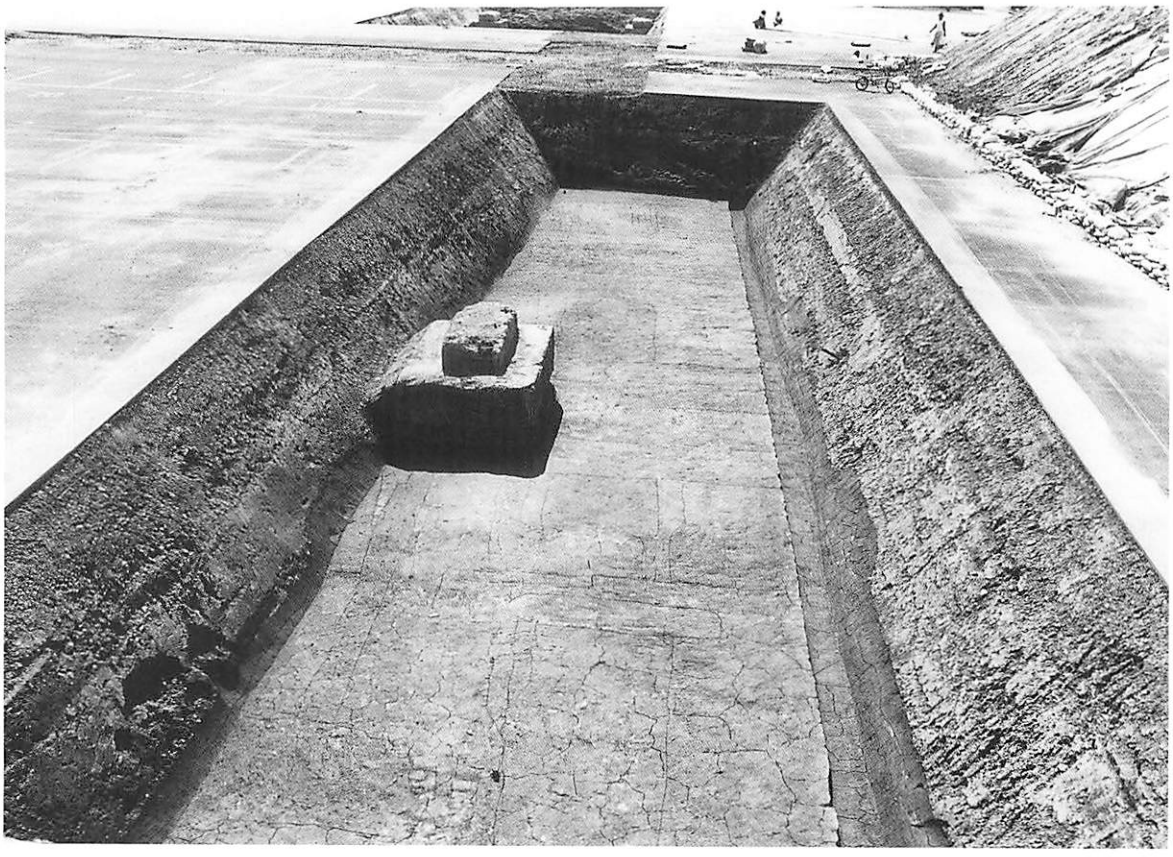


瓦実測図（1/2）

発掘前光景（西・６層駐車場屋上の東南より）

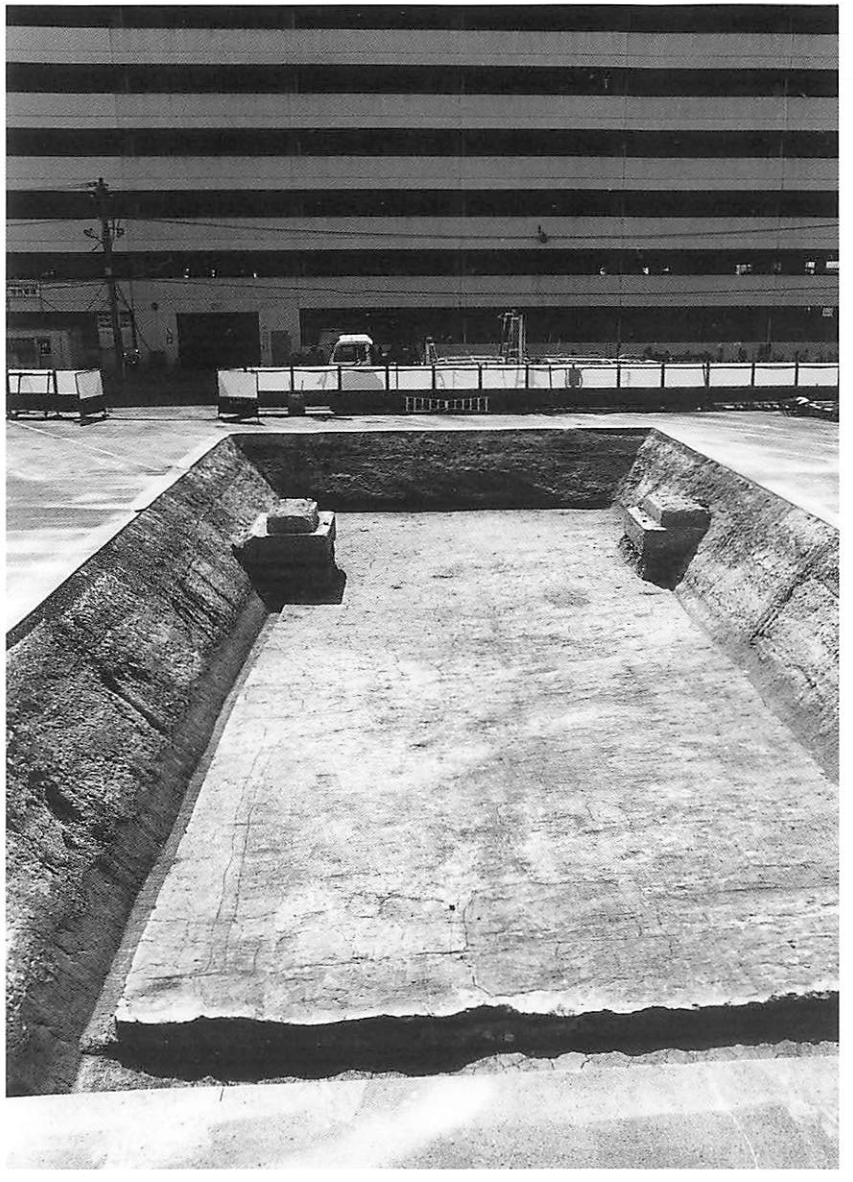
機械掘削光景（西より）

第１トレンチ遺構検出作業光景（西より）



第１トレンチ終了光景（東より）

第3トレンチ終了光景（西より）



第2トレンチ終了光景（東より）

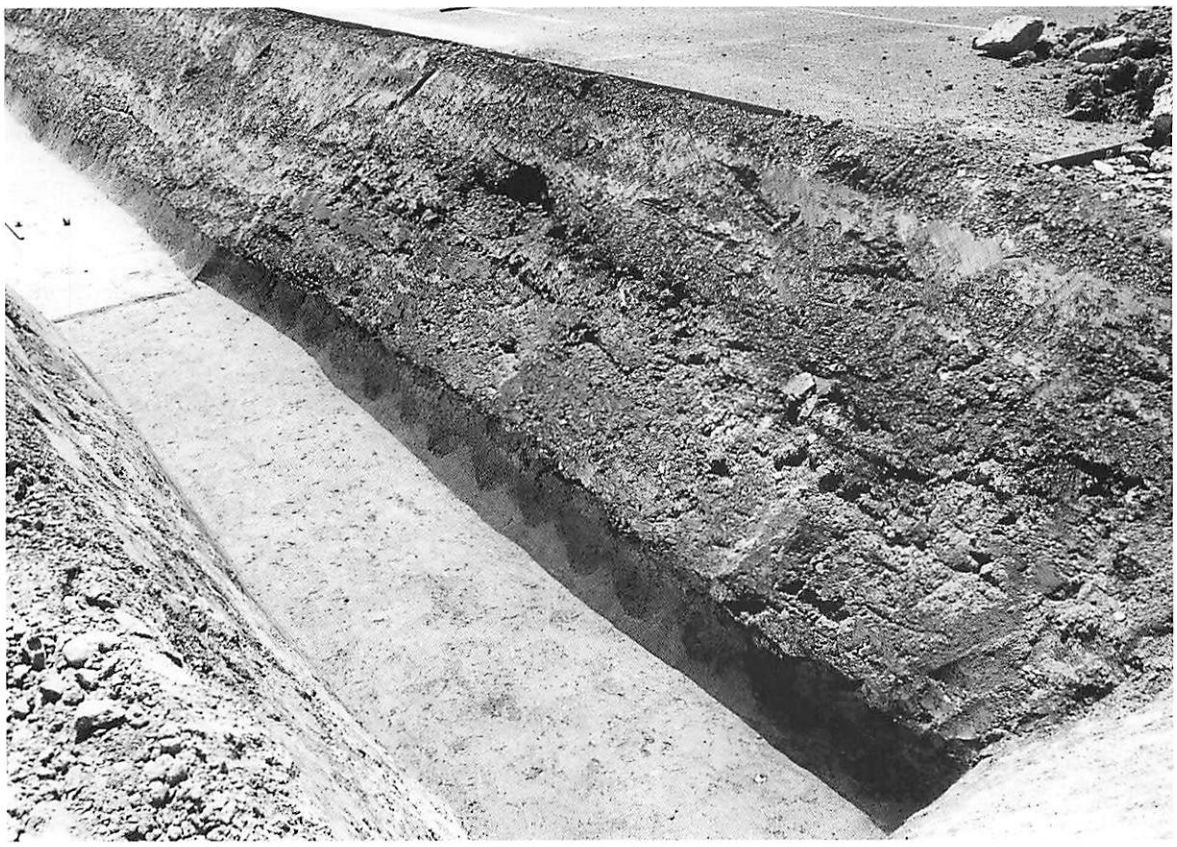
図版11

第４トレンチ終了光景（西より）

終了全景（西・６層駐車場屋上東より）

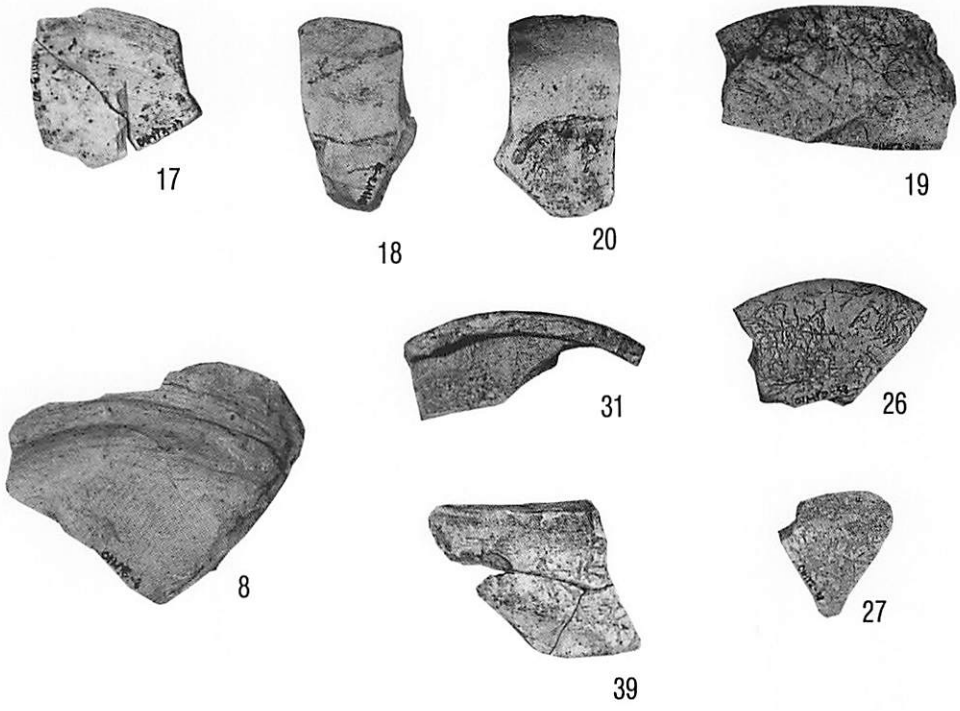
第１トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）

土坑ＳＫ177遺物出土状況（東より）

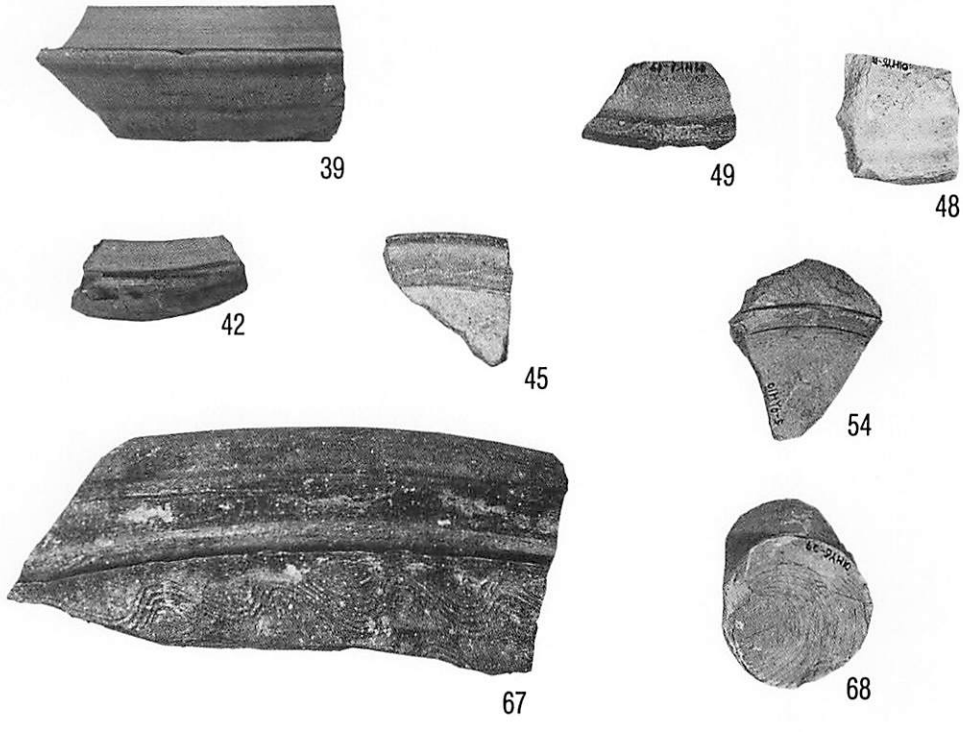


第３トレンチ拡張区遺構検出状況（北西より）

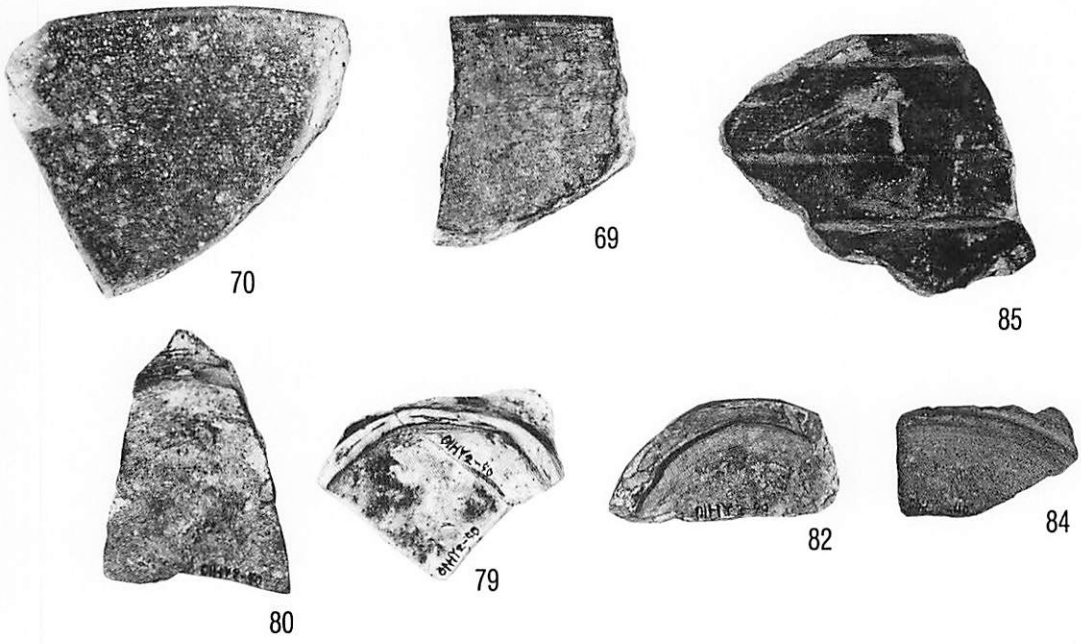
ピットＰ320検出状況（北より）



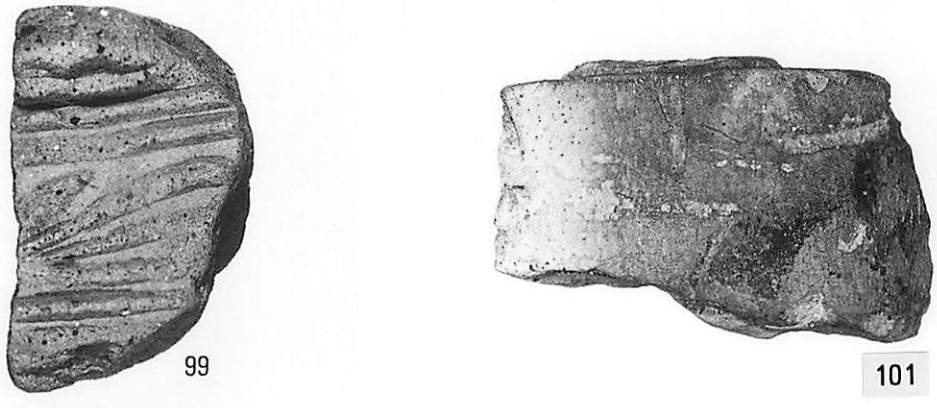
土師器



須恵器



瓦器・瓦質土器



瓦

報告書抄録

ふりがな	きょうとふくみやまちょうはやしでらあとしくつちょうさほうこくしょ
書　　名	京都府久御山町林寺跡試掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	江谷　寛，桐山秀穂
編集機関	（財）古代學協會
所 在 地	〒604-8131　京都府　京都市中京区三条高倉　　TEL075-252-3000
発行年月日	平成14年３月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
はやしでらあと 林寺跡	きょうとふくぜぐんくみやまちょうおおあざはやしあざたかぐろちない 京都府久世郡久御山町大字林字高黒地内			35° 3′ 1″	136° 59′ 8″	2001年６月４日～2001年８月１日	1350	遺跡確認のための試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
林寺跡	集落 寺院跡	縄文時代晩期 弥生時代中期 古墳時代前期 古墳時代後期 飛鳥時代 奈良時代 平安時代前期 平安時代後期 江戸時代	溝・土坑・ピット	縄文土器深鉢 弥生土器甕・壷 土師器壷 須恵器杯 須恵器杯 須恵器杯・土師器皿 須恵器壷・緑釉陶器椀・灰釉陶器椀 土師器皿・瓦器椀・瓦質土器羽釜・白磁碗 肥前染付・土製円盤 砥石	

京都府久御山町
林寺跡試掘調査報告書

発行日　平成14年3月20日

編集
発行　財團法人　古代學協會
604-8131　京都市中京区三条高倉
振替 01080-4-850
Tel.075-252-3000

印刷　三星商事印刷株式会社
604-0093　京都市中京区新町通
竹屋町下ル弁財天町298
Tel.075-256-0961

EXCAVATIONS AT THE HAYASHI TEMPLE SITE IN KUMIYAMA, KYOTO PREFECTURE

THE PALAEOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN, INC.

KYOTO MM II